

一〇 彼 三角智印
なり。
一〇 智を拳にす云
云 亮相の印なり

曩莫三滿多沒駄喃、阿爾單惹也、薩嚩薩但嚩捨夜弩葉多娑嚩賀。

復た(一〇)彼の南方に於て、救世の佛と菩薩との大徳聖尊の印あり、號して滿衆願と名く、眞多麼尼寶を、白蓮の上に住せしむ、(一一)智を舉にして風を眉に住く、前の二は普通の印なり、彼の三の眞言に曰く、

一切菩薩

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩他尾麼底尾枳囉拏、達麼駄觀涅翼惹多三三訶娑嚩賀。

一切諸佛心

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩沒駄胃地薩但嚩訖哩娜野、捺哩吠捨你、曩莫薩嚩尾囉娑嚩賀。

毫相

曩莫三滿多沒駄喃囉泥囉鉢囉波多叫娑嚩賀。

次に其の勝方に於て、蓮華大精進の自在觀世音あり、光色皓月と、商佉と軍那華との如くして、微笑して白蓮に坐し、髻に無量壽を現せり、彼の右に大名稱、聖者(一二)多羅尊あり、青白の色相ひ雜はり、中年の女人の形にして、合掌して青蓮を持し、圓光

(一三) 多羅尊 胎藏界觀音の第一行に居る觀音菩薩の眼より生じたる菩薩。

(一四) 毘俱胝 胎藏界觀音の第三行に居る菩薩なり。
(一五) 色主なく黄赤白の三色相交りて、純黄純赤純白ならざる故なり。
(一六) 得大勢至 胎藏界觀音の第二行に在り。
(一七) 持明彌者 即ち耶輸陀羅の翻名なり。
(一八) 白處尊 胎藏界觀音の第三行の最下に在り。
(一九) 賀野吃哩嚩 梵の Haryakalpa 馬頭と譯す、胎藏界觀音の第一行第七位に在り。
(二〇) 名稱は持名稱のこと。
(二一) 奢摩他 Samatha 正定を譯す、密教は左手を定に表す。

遍せずと云ふこと廉く、陣發せること淨金の猶し、微笑して鮮白の衣をきたり。

次に(一四)毗俱胝あり、手に數珠鬘を垂れ、三目にして髮髻を持し、身形縞素の如く、圓光の(一五)色主なくして、黄赤白相ひ入れり。

次に(一六)得大勢至あり、被服商佉の色にして、大悲の蓮華手にあり、滋榮して未だ敷らけず、圍繞するに圓光を以てせり、明妃ありて其の側に住せり、(一七)持名稱者と號す、一切の妙瓔珞、金色の身を莊嚴し、鮮妙の華枝を執り、左に鉢胤遇を持せり。

次に聖多羅に近て、當に(一八)白處尊を觀すべし、髮冠にして純白を襲、鉢曇麼華手にあり。聖者の前に於て、大力持明王を作せ、晨朝の日暉の色にして、白蓮以て身を嚴り、赫奕として焰鬘を成じ、吼怒して牙出現し、利爪にして獸王の髻あり、(一九)賀野吃哩嚩入、身相の儀軌なり、大精進と眷屬との、八密次に當に陳ぶべし、十度仰て開敷し、地空を自ら相ひ竝ぶ、多羅内に又て拳にし、風を針にして空を前へに附けよ、毗俱胝は風を交へよ、大勢は福智合して、蓮の未だ開けざるが猶如くす、白處は前の印に同じて、空水を移して月に入る、馬頭は即ち前の印、風を空輪の下に屈して、相ひ去ること穠麥の如し、(二〇)名稱は(二一)奢摩他、上擧て風輪を屈す、地藏は馬頭に同じく。水

風を由べて餘は拳にす、彼彼の眞言に曰く、觀音は蓮華部の上首なり。

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩但他藥多嚩路枳多、羯嚩儂摩野、羅羅羅吽惹、娑嚩賀。

多羅尊

(一) 曩莫三滿多沒駄喃、多囉多囉拏迦嚩拏納婆吠娑嚩賀。

毗俱胝

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩婆野但羅散你吽娑頗吒野娑嚩賀。

得大勢至

曩莫三滿多沒駄喃、三參賀、薩他麼鉢羅跋多髻髻娑、娑嚩賀。

耶輸多羅

曩莫三滿多沒駄喃、瑛野戍駄囉野娑嚩賀。

白處尊

曩莫三滿多沒駄喃、但他藥多尾灑野三婆吠鉢娜麼履佉娑嚩賀。

阿耶揭利婆

曩莫三滿多沒駄喃、吽佉曩野吽惹娑頗吒野、娑嚩賀。

(一) 此の多羅尊の眞言の二三句經及廣育之三軌と前後あり。

(一) 因陀羅とは東方なり、即ち胎藏界曼荼羅中臺より上第三文殊院を明す。
(二) 妙吉祥、文殊菩薩文殊院の主尊にして中央に位す。
(三) 光網童子 Prabhajita 光網菩薩とも稱す、文殊菩薩の左に座す。
(四) 佛長子とは文殊菩薩のこと。
(五) 無垢光尊 (Vajrapāṇi) 文殊菩薩の右第三に位す。
(六) 無勝智、文殊菩薩のこと。
(七) 繼沒尼、スミ。
(八) 三尊とは文殊光網無垢。五使者とは繼沒尼以下の五尊なり。

地藏

曩莫三滿多沒駄喃、賀賀賀素但弩娑嚩賀。

已に初の界域の、諸尊の方位を説き竟ぬ、大心の摩訶薩、應に第三院に往くべし、(一) 因陀羅の方の中に、先づ(二) 妙吉祥を安せよ、身相鬱金色にして、五佛の髻冠頂にあり、童子の形の猶如し、左に青蓮華を持す、上に金剛印を表せり、微笑して白蓮に坐す、妙相圓滿の光、周匝して互に暉映せり、右に(三) 光網童子あり、種種の妙瓔珞あり、網を執て寶蓮に坐して、(四) 佛長子を觀せり、左に(五) 無垢光尊、左右に五使者あり、謂ゆる髻沒尼と、優婆髻沒尼と、質多羅と、地慧と、請召との五使者なり、五種の奉教者あり、(六) 無勝智を侍衛せり、文殊は智定の手、火を合して水上に加へ、風空嚩字の如く、(七) 盛め合して青蓮に似たり、火網は定を拳と爲して、風を屈して鈎の勢の如くす、無垢は前の印に同じて、五輪並べて少く屈す、(八) 繼沒尼は刀印なり、慧の拳火風を立つ、優婆計尼は戟なり、前の拳火を申へ直くす、質多は杖を執る如くす、地慧幢は定の手、拳を成じて地水を申ふ、請召童子の印は、慧の拳風を鈎の如くす、(九) 三尊(五) 五使者、請召等の眞言にいはいはく、

火殊

曩莫三滿多沒駄喃係係矩麼囉迦尾目吃底鉢他悉體多娑麼囉娑麼囉鉢底燃娑囉賀。

光網

曩莫三滿多沒駄喃、係係矩麼囉、怛野莫多娑囉婆囉悉體多娑囉賀。

無垢光

曩莫三滿多沒駄喃、係係矩麼囉尾唧怛囉誑底矩麼囉摩弩娑麼囉娑囉賀。

計沒尼

曩莫三滿多沒駄喃、係係矩麼哩計、那野枳徐也、難娑麼囉鉢底燃娑囉賀。

優婆計沒尼

曩莫三滿多沒駄喃類娜野枳徐也難係矩怛哩計娑囉賀。

質多

曩莫三滿多沒駄喃弭哩娑囉賀。

(一)財慧

曩莫三滿多沒駄喃係哩娑囉賀。

(一)財慧と地慧種の異名

地慧幢

曩莫三滿多沒駄喃、係娑麼囉惹曩計觀娑囉賀。

弩召請童子

曩莫三滿多沒駄喃 阿羯囉囉野薩鍍矩嚕阿燃矩麼囉寫娑囉賀。

(一)行者右の方に於て、先づ大名稱、(二)除蓋障菩薩を作れ、如意寶を執持せり、二分の位を捨てて、當に入菩薩を致くべし、謂ゆる除疑怪と、無畏と除惡趣と、救護と大慈生と、悲念除熱惱と、不思議慧等となり、除蓋は定慧を合して、地水空掌に入れ、風火自ら相竝べ、除疑は定慧を拳にして、火を舒べ三節を屈す、毗鉢を施無畏にするをば、即ち無畏の印と名く、慧を擧て五輪を申ふ、是れ除惡趣の印なり、前の印心を掩ふ、即ち救護慧と名く、智の手持華の狀にす、是れ即ち大慈生なり、慧火を屈して心に掩ふ、是れを悲念者と名く、除熱惱は慧の手、下して施願の印に作す、不思議慧の印は、慧の空風相ひ持して眞多摩尼の狀なり、次に九の眞言を習せよ、

除蓋

曩莫三滿多沒駄喃、阿薩怛囉係多毗度臘曩多、怛嚩怛嚩嚩嚩娑囉賀。

(一)胎藏界曼荼羅中臺八葉院の左第二重の座たる除蓋障院なり。(二)除蓋障菩薩除蓋障院の主宰なり。

除疑怪

曩莫三滿多沒駄喃、尾麼底掣諾迦娑嚩賀。

施無畏

曩莫三滿多沒駄喃、阿佩延娜娑嚩賀。

除惡趣

曩莫三滿多沒駄喃、阿弊達囉憐薩怛嚩駄敦娑嚩賀。

救護慧

曩莫三滿多沒駄喃、係摩賀摩賀娑摩囉鉢囉底燃娑嚩賀。

慈生

曩莫三滿多沒駄喃、娑嚩載始囉莫多娑嚩賀。

悲念

曩莫三滿多沒駄喃、迦嚩憐沒嚩呢多娑嚩賀。

除熱

曩莫三滿多沒駄喃、係嚩囉娜嚩囉鉢囉、波多、娑嚩賀。

(一) 胎藏界曼荼羅
中臺八葉院の右第
二重なり。
(二) 地藏院の主尊
なり。

(三) 就方とは西方
なり、即ち胎藏界
曼荼羅中臺八葉院

不思議慧

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩捨跋哩布囉迦、娑嚩賀。

(一) 行者勝方に於て、(二) 地藏摩訶薩、雜寶の地間錯し、四寶を蓮華となし、骸胎巧に嚴麗し、聖者其の中に處し、無量の菩薩と俱なり、寶掌と及び寶手と、持地と寶手印と、及び發堅固意なり、初の印は智定を拳にして、二火輪開直くす、寶處は慧を拳と成し、三輪を舒へ散す、寶手は前の拳を用ゆ、餘は收て水を申へ直くす、智定背け相ひ合し、空地互に加へ持す、新地の印是の如し、前の五股戟を用ゆ、即ち寶印手と名く、即ち前の金剛戟なり、是を第六印と名く、彼彼真言に曰く

地藏

曩莫三滿多沒駄喃、賀賀賀尾娑麼曳、娑嚩賀。

寶處

曩莫三滿多沒駄喃、係麼賀麼賀、娑嚩賀。

寶掌

曩莫三滿多沒駄喃、囉怛怒囉婆嚩、娑嚩賀。

持地

曩莫三滿多沒駄喃、駄羅尼駄囉、娑嚩賀。

印手

曩莫三滿多沒駄喃、囉怛那你囉爾多娑嚩賀。

堅固

曩莫三滿多沒駄喃、嚩曰囉三婆嚩娑嚩賀。

復た(三)就方に至て、諦に虚空藏を觀せよ、勤勇にして白衣を被、(四)刀の炎焰を生ずる

より西方第二重の
虚空藏院なり、主
尊は虚空藏菩薩な
り。
(四) 刀は銀なり

(一) 餘の六は兩
手の水火風を開く
こと。
(二) 八は恐らくは
九か。

を持す、正覺所生の子、及び諸の眷屬と與なり、無垢と虚空慧と、清淨慧と行慧と、
安慧と出現智と、蓮華印と執杵となり、後の三は普通の印なり、是の如き諸の菩薩、
左右に安布すべし、初の印は福智を合して、風を火の上節に加へ、空を雙て月中に入
れ、次の印は風を空に加へ、定慧平合する是れなり、次の三は虚空慧なり、印に轉法
輪を用ゆ、次の四は商佉を用ゆ、行慧は二羽を合せ、(一)餘の六は仰で華の如くす、安
慧は文殊に同じ、(二)八印及び眞言、次第に稱誦せよ、彼彼の眞言に曰く、
虚空藏 曩莫三滿多沒駄喃、阿迦舍三滿多弩藥多尾唧但嚩囉達囉娑嚩賀。
無垢 曩莫三滿多沒駄喃、誑誑曩難多虞左羅、娑嚩賀。
空慧

曩莫三滿多沒駄喃、作吃囉嚩唎底、娑嚩賀。

清淨

曩莫三滿多沒駄喃、達磨三婆嚩、娑嚩賀。

行慧

曩莫三滿多沒駄喃、鉢曇麼囉野、娑嚩賀。

安慧

曩莫三滿多沒駄喃、惹弩温婆嚩娑嚩賀。

出現

曩莫三滿多沒駄喃、嚩日囉悉體囉沒弟、布囉嚩嚩但麼、滿但囉娑嚩賀。

蓮華

曩莫三滿多沒駄喃、俱嚩捺野娑嚩賀。

執杵

曩莫三滿多沒駄喃、嚩日囉迦囉娑嚩賀。

(一) 復次に華臺の右、大日の左方に、能く一切の願を満する、持金剛慧者あり、(二)鉢孕
遇華の色、或は綠寶の色の如にして、首に衆寶の冠を戴き、瓔珞を以て身を莊嚴し、
間錯して互に嚴飾し、廣多にして數無量なり、右に嚩日囉を執り、周環して光焰を起
せり、金剛藏の右に、部母(三)怛荖雜あり、亦堅慧の杵を持し身を嚴るに瓔珞を以せり、
彼の左に(四)金剛針あり、使者衆圍繞せり、微笑して同く瞻仰す、次に右に商羯羅あり、
五金剛鎖を執持す、自部の諸使と俱なり、身相淺黄色にして、智杵を標幟となす。

(一) 胎藏界受茶羅
中臺八葉院左第一
重に位する金剛手
院を明す、持金剛
慧金剛手院の主尊
金剛薩埵なり。
(二) 鉢孕遇華色と
は淡黄なり。
(三) 怛荖雜、モウ
モケイと讀む、金
剛手院の主尊の上
に位す。
(四) 金剛針菩薩
(S. 1111) 胎藏界
受茶羅金剛手院第
一行第一位に在
り。
(五) 金剛鎖菩薩
S. 1111 胎藏界
手院中行第五位に
在り。

(二)月懸尊 忿怒
明王の (Trilakha-
vijaya-raja) 略

次に満願の下に、忿怒降三世あり、號して(三)月懸尊と名く、三目にして利牙を現す、夏時の雨雲の色にして、金剛寶を以て瓔珞とす、阿吒吒の笑の聲あり、衆生を攝護するが故に、無量の衆圍繞せり、乃手百千の手に、衆の器械を操持せり、是の如の忿怒等、皆蓮華の中に住せり、南方の満願會に、五の大持明王あり、初の印は内に又て拳とし、火を建て風を鈎の如くし、地空を自ら相ひ竝ぶ、部母は地空を入れ、餘は相ひ竝べて初に同じ、縛外して風輪を豎つ、金剛針の密契なり、鎖の契は福智の手、反し鈎して身に向て轉じ、空を舒て智を上に加へ、月懸は空を風に附けり、竝べ申て相ひ著けず。

彼々の眞言に曰く、金剛手菩薩は是れ金剛部の上首なり。
曩莫三滿多嚩曰囉赧、嚩囉曰囉播尼戰拏摩賀路灑拏吽、娑嚩賀。

怛拏難

曩莫三滿多嚩曰囉赧、但嚩吒但嚩吒惹衍底、娑嚩賀。

金剛針

曩莫三滿多嚩曰囉赧、薩嚩達麼徐嚩吠達你嚩曰囉素爾嚩囉泥、娑嚩賀。

金剛鎖

曩莫三滿多嚩曰囉赧、吽滿馱滿馱野、暮吒暮吒野嚩曰嚩納婆吠薩嚩但囉鉢囉底賀多娑嚩賀。

月 歷

曩莫三滿多嚩曰囉赧、頤唎吽頗吒娑嚩賀。

次に彼の西方に於て、大日如來の下に、無量の持金剛あり、形色各々差別あり、所爲の諸の奉教は、福智の手を拳に成して、二風上節を屈す、金剛拳は名の如し、心に當て、明句を習せよ、持地は定慧の手、反し又へて背け相ひ著け、地空互に相加す、一切金剛持は、前の持地の契に同じ、一切の奉教者は、上の如く福智を拳にす、如上の諸金剛、形色各の差別なり、普ねく圓滿の光を放つ、(二)眞言主の下、(三)涅哩底の方に依て、(四)不動如來使あり、(五)慧には刀(六)定には罽索あり、頂髪左の肩に垂れ、一目にして諦視し、威怒にして身に猛焰あり、寶盤石に安住し、面門に水の波相あり、充滿せる童子の形なり、是の如く具慧者、印を持し、種子十九を布して、轉じて身を成せよ、一切の天蘇洛、敢て正しく視る者なし、(七)風方に忿怒尊あり、謂ゆる勝三世なり、威猛焰圍繞し、寶冠ありて金剛を持す、種子百八轉して、忿怒の身を成す、自の身命

(一)眞言主は
大日如來なり。
(二)涅哩底は西
南方なり。
(三)不動如來使
(Arjuna-karma)
(四)不動尊 又は
不動明王と言ふ、
胎藏界曼荼羅持明
院の左端に在り。
(五)慧足 慧は右
手、定は左手のこ
(六)風方とは西北
方なり。

を願みず、專請して教を受く、不動の印上の如し、三世勝上に同じ、金剛慧と月耀と、眞言主と眷屬と、七大金剛使となり、彼口の眞言に曰く、

奉教

曩莫三滿多沒駄喃、阿尾娑摩野備曳、娑嚩賀。

金剛拳

曩莫三滿多嚩曰囉根、薩頭吒野、嚩曰羅三婆吠、娑嚩賀。

持地

曩莫三滿多嚩曰囉根、達囉拏達囉娑嚩賀。

一切持金剛

曩莫三滿多嚩曰囉根、吽吽頰吒頰吒、髻髻娑嚩賀。

一切奉教

曩莫三滿多嚩曰囉根、係係积余囉野細吃哩恨拏、吃哩恨拏、佉曩佉鉢哩布羅野、

薩嚩积迦囉根、薩嚩鉢囉底尾燃、娑嚩賀。

不動

曩莫三滿多嚩曰囉根、戰拏摩賀囉灑拏、娑頰吒野吽但吒憾捨、娑嚩賀。

勝三世

曩莫三滿多嚩曰囉根、賀賀賀尾娑麼曳薩嚩怛他藥多尾灑野三婆嚩怛囉路积也尾惹野
吽惹娑嚩賀。

東方初門の中に、釋迦白蓮に坐し、四八紫金の色にして、袈裟衣を被服し、教をして流布せしめんがために、彼に住して説法したまへり、三昧の衆圍繞せり、次に牟尼の右に、遍知眼を顯示し熙怡の相にして微笑し、遍體に圓淨の光あり、喜見無比の身なり、是を能寂母と名く、復世尊の右に、毫相の明を置け、鉢頭摩華に住し、圓光あつて商佉の色なり、如意寶を執持して、衆希願を満足し、暉光あり大精進なり、救世の釋師子なり。

次(一)右に五佛頂あり、白傘と勝と最勝と、火光聚と捨除と、大我の釋種なり、(二)復毫相の左に、三佛頂を安置す、廣大と極廣大と、及び無邊聲と、應當に是の處に、精進して一心に造すべし。前の五は白と黄と金となり。次の三は白と黄と赤なり、釋迦の眷屬、十二大士の印をいは、牟尼は説法の相、智の手吉祥の印なり、母の印は佛

(一)次右經には次
左と作す。
(二)毫相 左とは
毫相右と作す。

頂に同じ、異なることは謂く金剛の標なり、毫相は智の拳を豎て、風節を眉の上に置く、白傘は慧の風を豎て、定の掌覆て蓋の如し、勝頂は前の刀印なり、最勝の印は輪に同じ、火聚は佛頂に同じ、捨除は智を拳と成して、風を抽て、屈して鈎の如くす、廣大發生頂は、同く蓮華の印を用ゆ、極廣廣生頂は、五股金剛の印、水を福智に入て合し、風を屈して火中に持す、下節の上一麥ばかりなり、無邊音聲頂は、身印商法に同じ、一切佛頂の印は、慧の五峰を聚めて、自の頂上に安ず、彼彼の眞言に曰く、

釋迦

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩訶哩舍你素捺曩薩嚩達磨嚩始多鉢囉波多誑誑曩三麼三迷、娑嚩賀。

佛母

曩莫三滿多沒駄喃、沒駄路左你嚩弩囉麼達摩三婆嚩尼迦曩三參、娑嚩賀。

毫相

曩莫三滿多沒駄喃、惡慮、娑嚩賀。

白傘

曩莫三滿多沒駄喃、嚩悉但鉢但囉嚩瑟捉灑、娑嚩賀。

勝頂

曩莫三滿多沒駄喃、苦惹度嚩瑟捉灑娑嚩賀。

最勝

曩莫三滿多沒駄喃、施泉尾惹庾嚩瑟捉灑娑嚩賀。

火聚

曩莫三滿多沒駄喃、但陵唵帝儒羅施嚩瑟捉灑、娑嚩賀。

捨除

曩莫三滿多沒駄喃、訶嚩唵尾枳囉拏半祖嚩瑟捉灑、娑嚩賀。

極廣

曩莫三滿多沒駄喃、吒嚩唵嚩瑟捉灑、娑嚩賀。

廣大

曩莫三滿多沒駄喃、室嚩唵嚩瑟捉灑、娑嚩賀。

無邊音

曩莫三滿多沒駄喃、ウムンヤノウシユニジヤ 吽惹度耶瑟拈灑、娑嚩賀。

一切佛頂

曩莫三滿多沒駄喃、ムンムンムンムンムンムンムン 鍘鍘鍘吽吽發吒、娑嚩賀。

次に其の(一)勝方に於て、(二)淨居衆を布列せよ、自在と普化と、光鬘と及び意生と、名遠遠聞等となり、各の其の次第の如くせよ、慧の手已が頬を承け、普化は自在に準せよ、火と風と差ひに戻るを異とす、光鬘の印は前に同うして、空を改めて掌に横にす、滿意生天子は、空風加して花を持す、遍音聲天の印は、智の空を水の上に加へ、慧の耳門を舒掩へ、五天并に眷屬、次の如く眞言を習せよ。

自在天

曩莫三滿多沒駄喃、ムンムンムンムンムンムンムン 唵播囉你怛麼囉底毗藥、娑嚩賀。

普華

曩莫三滿多沒駄喃、ムンムンムンムンムンムンムン 麼弩囉摩達麼三婆嚩迦訖迦訖曩三參怛絳泥、娑嚩賀。

光鬘

曩莫三滿多沒駄喃、ムンムンムンムンムンムンムン 左觀耶姪寫難娑嚩賀。

(一)其の勝方釋迦院の北方なり。
(二)淨居衆云云。
(三)淨居天を明す。

(一)東隅とは東南の隅なり。
(二)火仙の像云六火天を明す。

滿意生天子

曩莫三滿多沒駄喃、ムンムンムンムンムンムンムン 阿唵嚩唵毘樂、娑嚩賀。

遍音聲天

曩莫三滿多沒駄喃、ムンムンムンムンムンムンムン 唵阿婆娑嚩囉毘樂、娑嚩賀。

行者(一)東の隅に於て、(二)火仙の像を作れ、熾燄の中に住す、三點の灰を標となす、身色皆な深赤なり、心に三角の印を置く、燄燄の中に作れ、慧に珠定に深瓶、印を掌にし、定に杖を持す、青羊以て座となす、妃后左右に侍せり、嚩思瑟姪仙、并に餘の諸の仙衆、其の眷屬となす、左方に閻摩天、の手に檀拏の印を乗る、水牛を以て座となす、震電玄雲の色なり、七母并に黑夜、死后妃圍繞せり、判官諸鬼の屬、眷屬等圍繞せり、火天は智を無畏にして、大空を掌中に横へ、請召するには慧の風を鉤せよ、嚩思等の五契、空水の二の文を持し、次第に開敷して遍せり、琰摩は福智を合せ、地風を月の中に入る、七母は三昧の拳にして、空を抽て、、豎よ錘の印なり、暗夜は前の印に同じ、風火並に皆申べよ、焰摩后妃は鐸なり、慧の手五輪を垂て、健吒の相の猶如くせよ、彼彼の眞言に曰く、

火天

曩莫三滿多沒駄喃、阿擬曩曳、娑嚩賀。

妃后

曩莫三滿多沒駄喃、阿起爾曳、娑嚩賀。

嚩斯仙

曩莫三滿多沒駄喃、嚩奈瑟姪嚩釤、娑嚩賀。

阿跋哩仙

曩莫三滿多沒駄喃、惡底羅野麼賀嚩釤、娑嚩賀。

喬答摩

曩莫三滿多沒駄喃、婆哩輸怛麼阿嚩釤、娑嚩賀。

藥嚩伽

曩莫三滿多沒駄喃、矯怛麼、摩賀嚩釤藥哩伽、娑嚩賀。

閻羅天

曩莫三滿多沒駄喃、吠嚩娑嚩多野、娑嚩賀。

七母

曩莫三滿多沒駄喃、摩怛哩毘藥、娑嚩賀。

暗夜

曩莫三滿多沒駄喃、迦羅羅怛哩曳、娑嚩賀。

判官

曩莫三滿多沒駄喃、只怛羅虞鉢多羅、娑嚩賀。

涅哩底鬼王、號して大羅刹と名く、刀を執て恐怖の形にす、身印(一)羯誡に同じ、是の諸の落刹娑、虚合して水を掌に入れ、風を豎て空火を交ふ、彼彼の真言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、囉吃察娑地跛多曳、娑嚩賀。

刹斯

曩莫三滿多沒駄喃、囉乞叉娑誡拈弭、娑嚩賀。

將兄

曩莫三滿多沒駄喃、乞囉嚩嚩、娑嚩賀。

衆

(一) 羯誡 羯誡は Khalka 大刀を譯す。

曩莫三滿多沒駄喃、嚩乞叉細毘藥、娑嚩賀。

(一) 嚩嚩拏、
西方を司る水
天なり。

(二) 阿毗目佉、
相
向守護の仁王尊の
こと。

(三) 毘紐、
那羅延天なり。

(四) 塞建、
鳩摩
天の異名にして、
童子と譯す、大白
在天の子なり。

(五) 商羯羅、
大白
在天のこと。

(六) 辯才、
妙音
司る天にして、
才天又は妙音天と
稱す。

龍方の(一)嚩嚩拏は、西門に縑索を執れり、天形にして女人の状なり、龍光あつて龜を座となす、門裏の前の左右に、忿怒無能勝あり、(二)阿毗目佉と對す、廂曲の中の大護、持明大忿怒なり、次右に無能勝、次左に無勝の妃、難徒拔難徒あり、西方には諸の地神と、辯才と及び(三)毘紐と、(四)塞建曩と風神と、(五)商羯羅と月天と、是等龍方に依れり、持真言行者、不迷惑の心を以て、之を置て遺謬すること勿れ、所餘の諸の釋種と、袈裟と及び錫杖と、師應に具に開示すべし、三昧形色異なり、縑索は内に又て拳にし、風を抽て頭圓らかに合す、地神は福智の羽、八度頭圓らかは合し、二空を附て蓋の如くす、(六)辯才は即ち妙音なり、慧の風空を持して、身に向し去來し、運動して樂を奏するが如く、彼の天の費拏の印なり、毘紐は即ち那延なり、三昧の空風を捻して圓なる孔輪の勢の如くす、彼の後は風を空に加ふ、此を以て殊異となす。

次に水天の右に於て、塞健童子と翻す、三首にして孔雀に乘れり、商羯羅は戟の印なり、定の空を自の地に加へて、火風水戟の形にす、後の印は空地を持す、妃の印は三輪を開く、西門の南の次に、月天の眷屬あり、二十八宿神、宮神等圍繞せり、月天は

(一) 嚩度、
神天なり、西北方
なり。

諸 龍

曩莫三滿多沒駄喃、阿播跋多曳、銘伽捨徐曳、娑嚩賀。

地 神

曩莫三滿多沒駄喃、跋哩體尾曳、娑嚩賀。

妙 音

曩莫三滿多沒駄喃、素囉娑嚩帝曳、娑嚩賀。

白鶴に乗り、身印は三昧の手、空を水の上に加ふ、潔白の觀を作すに因る、一切宿曜の印は、運合して火空を交ふ、即ち前の廂曲の中の、無勝は三昧の拳、翼輪を舉て開き散す、智の拳慧風を舒べ、相擬さる勢の猶如くす、相對は慧の拳を舉て、狀相ひ擊つ勢の如くするは、即ち阿毗目佉なり、

次の外勝及び妃、智に蓮を執て心に在き定を舒て外に向て距る、即ち無能勝と名く、次に勝妃の印を陳べし、福智内に拳と成して、空を屈して口の相の如くす、二龍は左古の掌、更互に一たび相ひ加す、(一)嚩度風天の幢は、智の拳地水を豎て、相觀じて風幢と作せ、一切の諸の眷屬、風天を圍繞せり、彼彼の真言に曰く、

延

曩莫三滿多沒駄喃、尾瑟拏吠、娑嚩賀。

后

曩莫三滿多沒駄喃、尾瑟拏吠、娑嚩賀。

月天

曩莫三滿多沒駄喃、戰捨囉野、娑嚩賀。

一切宿曜

曩莫三滿多沒駄喃、諾吃又但囉徐娜徐曳、娑嚩賀。

相對勝

曩莫三滿多囉曰囉赦、訥達哩灑摩訶嚕灑拏佉娜野 薩鏤 薩但他莫多撚矩嚕、娑嚩賀。

阿毘目佉

曩莫三滿多囉曰囉赦、係阿鼻穆佉摩賀鉢囉戰拏佉娜野緊示囉野泉三摩野麼弩娑麼囉

娑嚩賀。

外勝及妃

(一)多聞天 毘沙門天は、(二)四天王の一方の守護神なり。

曩莫三滿多沒駄喃、吽地噉地噉噉噉曰噉曰噉、娑嚩賀。

妃

曩莫三滿多沒駄喃、阿鉢囉秘帝惹演底但尼帝、娑嚩賀。

一龍

曩莫三滿多沒駄喃、難曩野、娑嚩賀。

二龍

曩莫三滿多沒駄喃、鄔波難那野、娑嚩賀。

風天

曩莫三滿多沒駄喃、囉野吠、娑嚩賀。

次に其の勝方の於て、北門に(一)多聞、天左右に八兄弟あり、母及び祖母等、吉祥功德天、萬勝獨勇健、男女眷屬等あり、多聞の身密印は、智定虛心合にして、地を隻べて掌に入て交へ、空をば豎て風をば側に柱ふ、一寸ばかり相ひ著けず。眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、吠室囉囉拏野、娑嚩賀。

次左に大藥叉あり、定慧内に又て拳とし、水豎て二風屈す、一切の藥叉女は、前の印

(一) 遮文茶 (Chhambhita) 燻摩七母の上首なり。
(二) 劫波羅 (Kāśyapa) 燻摩七母の二上首なり。
(三) 毘舍遮 (Vishaya) 燻摩七母の三上首なり。
毘舍遮の女人女賊鬼なり。
毘舍支 (Vishaya) 燻摩七母の四上首なり。
毘舍支の女人女賊鬼なり。

火輪を申へ、地空を自ら相ひ持す、(一) 遮文茶は定の掌、仰て(二) 劫波羅を持し、門の東の(三) 毘舍遮は、内縛して火を申へ、前の印輪を屈す、即ち(四) 毘舍支と名く、
彼の眞言に曰く、

一切藥叉

曩莫三滿多沒駄喃、藥吃叉濕嚩囉、娑嚩賀。

一切藥叉女

曩莫三滿多沒駄喃、藥乞叉也達嚩、娑嚩賀。

文 茶

曩莫三滿多沒駄喃、左悶拏曳、娑嚩賀。

舍毘遮

曩莫三多沒駄喃、比舍遮誑底、娑嚩賀。

毘舍支

曩莫三滿多沒駄喃、比舍比舍、娑嚩賀。

天王の八兄弟は、門の西東に各の四なり、同く一の眞言を習せよ、

印捺囉蘇摩嚩囉拏鉢囉惹波底婆羅納嚩惹伊舍那室戰娜諾迦摩室嚩惹姪矩頓建姪頓建
姪迦嚩膩麼批左囉鉢囉拏那鳩跋半只娑迦跢吃哩賀麼嚩多布羅拏佉你囉句尾諾虞播羅
藥叉阿吒嚩句曩囉邏惹爾娜乞泄波半惹囉嚩拏蘇母契爾伽藥乞灑婆畢哩惹曩唧但羅細
曩備嚩彦達嚩底哩頗哩左底哩建吒爾伽捨底室者摩多哩娑嚩賀。

鬼首伊舍那は、戟の印なり三昧の拳、火輪を舒て正眞くす。眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、魯捨囉野、娑嚩賀。

步多鬼

曩莫三滿多沒駄喃、舍寧步哆地波底、娑嚩賀。

惹也天

曩莫三滿多沒駄喃、曩莫惹曳、娑嚩賀。

烏摩妃

摩賀迦羅神

曩莫三滿多沒駄喃、摩賀迦羅野、娑嚩賀。

頻那夜迦天

曩莫三滿多沒駄喃、摩訶譏拏跋踰曳、娑嚩賀。

(一) 初方 東方なり。
 (二) 帝釋天 四天王の一、東方を守護する神。
 (三) 軍持とは、Mudita 經瓶と譯す。
 (四) 摩利支 Mandala 陽炎と譯す、日天の眷屬なり。
 (五) 四禪天 禪定を修して、生ずる所の色界の四天、一に初禪天、二に二禪天、三に三禪天、四に四禪天。
 (六) 福智の手 福智の空か。

次に(一)初方に住け、東門の(二)帝釋天は、妙高山に安住し、寶冠あり瓔珞を破り、手に獨鈷の印を持ち、天衆自ら圍繞せり、左に日天衆を置け、八馬の車輅の中にあり、二妃左右に在り、逝耶毘逝耶なり、譯して勝と無勝と云ふ、眷屬には執曜を布せよ、盎伽は、左右に在り、輪迦は東に在り、勃駄は南に在り、勿落薩鉢底は、日天の北に置き、設遮設遮は東南、羅睺は西南に在り、劔婆は西北に在り、計都は東北に在り、南緯の南に、涅伽多天狗を置け、北緯の北に、嚩伽跋多火を置け、摩利支は前に行て、翼従して待衛せり、大梵は帝釋の右に、七鵝の車に坐し、四面にして髮髻の冠あり、四手あり慧に華を持し、次の慧に數珠を持し、定の上には(三)軍持を執り、定の下の手は掌を側め、風を屈して餘は中直くす、淨行吉祥の印なり、名て唵字の印と爲す、(四)摩利支は寶瓶なり、定の手虚にして拳と成し、一切諸難の中、身その中に入ると想へ、智の掌を之に覆へ、天人の眼も見ず、(五)四禪天左に在り、無熱のごとき五淨右にあり、釋の印は内縛拳にして、二風豎てて杵の如くす。日天は(六)福智の手、各の水輪の側に置け、顯現して側めて相着け、仰げて車輅の形の如くす、社那毘社那は、般若と三昧

(一) 九執 九曜の義なり、即ち日月火水木金土の七曜と餘星と慧星との九種なり。
 (二) 密契 秘密の印契のこと。

との手、風地皆な内に向ふ、水火は自ら相ひ持して、定慧の輪頭を合し、空を建て、心に置く、(一)九執の印相は、餘に口づから傳授するが如し、釋の右の梵天の印は、三昧の空水を持して、華を執る相の猶如くす、慧風火の上に加へて、空水の中節を持するは、梵天妃の(二)密契なり、天帝眷屬の中、乾闥阿修羅は、前の印内縛拳にして、水を申るは樂天の印なり、修羅は智の手を以て、風を空輪の上に絞へ、九の印六の眞言あり。

彼彼の眞言に曰く、

天帝

曩莫三滿多沒駄喃、捨吃羅野、娑嚩賀。

日天

阿彌底也野娑嚩賀。

摩利支天

摩利支娑嚩賀。

九執

國譯攝大儀軌卷第二

蔓羅係濕鞋哩也鉢囉波多孺底麼野娑嚩賀。

梵天

鉢囉惹跋多曳娑嚩賀。

乾闥

尾戌駄娑嚩囉嚩係囉、娑嚩賀。

阿修羅

阿素囉葉囉邏演、娑嚩賀。

(一)標幟 佛菩薩
明王諸天の各の本
誓願の象徴せる
種々の物形。一
本には曲の字にな
る玉馬陰一本に
輪王馬となる。

佛子善く聽くべし、初の三昧耶より、平等開悟に至るまでは、東方の第一院、大日の衆の三昧なり、多くは天女の形に作れ、鈎より如來甲に至るまでは、各の白蓮臺に坐す、輪と刀と槩と商估と、鈴鐸と絹索とのごとき、豪相と口と舌と牙と、皆な各の蓮華を執り、華の上に(一)標幟を安ず、齋の印は華中に、蓮を圖作して火を環らす、圖好の妙相なり、(二)腰は珠鬘を回すが如くす、藏は玉馬の陰の如くし、陰藏現せしめず、施願と法辯説とは、蓮華の上に經藏あり、念處と十力のごときは、並に天人形を畫す、寂靜三昧の容なり、佛頂の相を作るべし、山を河と樹と華と草と、都と道との鬼

(二)年月、六時の
神(三)教一本に數に
なる。(四)大壇灌頂壇
護摩壇等に對して
本尊壇を大壇とい
ふ。(五)次に灌頂法を
明す。(六)四一は經には
一四なる。(七)當作とは經に
は當得なる。(八)法界生の印。

(九)三昧耶本尊
の印契なり。

(十)寂然護摩灌
頂のとき弟子の滅
罪の爲に修する息
災の護摩。一肘の
量にて即ち一尺六
寸なり。(十一)光明壇とは護
摩壇なり。

神天、名に隨て標幟を作れ、(一)年月六時の神、華を持して本(二)教に隨へ、略して大悲藏、曼荼羅の位を説き竟ぬ、一切の諸の聖衆、廣くは(三)大壇の圖の如し、灌頂の阿闍梨、經の如く供養を修し、(四)次に應に度すべき者、或は十或は八九、或は五二(五)四一を引け、之に瀧ぐに淨水を以し、塗香華を授與して、菩提心を發さしめ、彼に最上の戒を授て、諸の如來を憶念せしむべし、一切皆な(六)當に作す、淨佛家に生ず、(七)法界生の印、及及び法輪の印、金剛有情等を結て、用て加持を作せ、次に自當に諸佛の三昧耶を結て三轉して淨衣を加すべし、眞言法教の如くせよ、赤衣を彼の首に覆ひ、深く悲念の心を起して、三たび(八)三昧耶を誦すべし、頂戴するに羅字を以し、嚴るに大空點を以す、周匝して焰鬘を開き、字門より白光を生じ、流出すること満月の如し、現に諸の救世に對して、淨華を散せしめよ、其の華の至る處に隨て、行人宗奉すべし、曼荼羅の初門の、大龍廂衛の處、二門の中間に、學人を安立せよ、彼に住して法教に隨て、衆の事業を作せ、是の如く弟子をして、諸過を遠離せしめて、(九)寂然の護摩を作すべし、護摩法に依て住す、初め中胎藏自り、第二の外に至て、曼荼羅の中に於て、無疑慮の心を作せ、其の自の(十)肘量の如く、陷て(十一)光明の檀を作れ、四節を周界と

(二) 具支分 護摩
を修する際に用ゆる種々の用具。
(三) 吉祥草 刺のある茅草にして、佛成道の時之を坐さなせり。

(四) 火光尊とは火天なり。

(五) 滿器とは大杓なり。

爲し、中に金剛の印を表す、師位の右方に、護摩の(三)具支分ををけ、學人其の左に住して、蹲踞して敬心を増す、(三)自ら吉祥草を敷き、地に藉て以て安坐す、或は衆の綵色を布すべし、形暉し極めて嚴麗ならしめて、一切の續の事成す、是れ略護摩の處なり、周匝して祥茅を布け、瑞末互に相ひ加して、右に旋て皆な廣く厚くして、遍く瀉ぐに香水を以し、(四)火光尊を思惟し、赴請して爐中に入れ、一切を哀愍するが故に、應當に(五)滿器を持して、以て之を供養すべし、爾の時に善住者、當に是の眞語を説くべし。

曩莫三滿多沒駄喃、唵誑曩曳、娑嚩賀。

復た三昧の手を以て、次に諸の弟子の、慧の手の大空指を持して、略して護摩を奉持せよ、獻する毎に輒ち誠に誦して、各別に三七に至せ、當に慈愍の心に住すべし、法に依て眞實の言を以て、(五)奉持して護摩すべし。

曩莫三滿多沒駄喃、阿摩賀扇底藥多扇底羯囉鉢囉摩達摩爾惹多阿婆嚩薩嚩婆嚩達摩娑嚩多鉢囉波多娑嚩賀。

行者護摩し竟て、教て呪施せしむべし、金銀衆の珍寶、象馬及び車乘、牛羊上衣服、

(五) 奉持の次恐は而の字脱す。

(一) 中曼荼羅とは謂く中胎藏なり。
(二) 四執金剛 灌頂の小壇にて即ち新阿闍梨の供養を受くる壇の四門の守護の金剛にて、住無戲論は東南、虛空無垢は西南、被雜色金剛は西北なり。

或は復た餘の資財、弟子當に誠を至して、恭敬して愆重を起すべし、深心に自ら忻慶して、所尊に奉る、淨捨を修行するを以て、彼をして歡喜せしむるが故に、已に爲めに加護を作して、召て告て言ふべし、今此の勝福田は、一切の佛の所説なり、廣く一切の諸の有情を饒益せんと欲がためなり、一切の僧に奉施せよ、當に大里を獲べし、無盡の大資財、世説するに常に隨て生ず、僧を供養する者は、具徳の人に施すを以なり、是の故に世尊説きたまはく、應當に歡喜を發して、力に隨て餽膳を辨じて、現前僧に施すべし。摩訶毘盧遮那、復た執金剛に告て、伽陀を説て曰く、汝摩訶薩埵、一心に諦に聽くべし、當に廣く灌頂を説くべし、古佛の開示したまふ所なり、師第二の壇を作て。(二)中曼荼羅に對して、外界に圖畫せよ、相ひ距ること二肘量なり、四方正しく均等なり、内に向て一門を開け、(三)四執金剛を安じて、其の羅の外に居せしめよ、謂ゆる住無戲論と、及び虛空無垢と、無垢眼金剛と、被雜色衣等なり、内心には大蓮華をなせ、八葉及び鬚鬘あり、四方の葉の中に於て、四伴侶の菩薩あり、彼の大有情の、往昔の願力に由るが故なり、云何んが名て四と爲る、謂ゆる總持自在と、念持と利益心と、悲者菩薩等となり、所餘の諸の四葉に、四の奉教者を作れ、雜色衣と、滿

〔二〕法界等とは五
字なり、深義は口
疏に在り。

四二四

願と、無鬘と解脱となり、中央に〔三〕法界、不可思議の色を示せ、四寶所成の瓶に、衆
の藥寶を盛り滿つ、普賢と慈氏尊と、及與び除蓋障と。除一切惡趣とを、而も以て加
持を作す、彼れ灌頂の時に、當に蓮華の上に置くべし、獻するに塗香華、燈明及び闍
伽を以す、上に幢幡蓋を蔭ひ、攝意の音樂、吉慶の伽陀等の、廣多の美妙の言を奉る、
是の如く供養して、歡喜を得せしめ已て、親子諸の如來に對したてまつりて、而も自
ら其の頂に灌で、復當に彼の妙善の諸の香華を供養すべし、觀の羽を以て〔四〕五智を持
して、彼の雙手に授與す。

〔三〕五智とは五股
杵なり。

諸佛金剛灌頂の儀を以て、汝已に如法に灌頂し已ぬ。如來の體性を成せんがための故
に、汝應に此の〔五〕金剛杵を受くべし。

〔五〕金剛杵とは五
股金剛にて、五智
を授與するは、吾人
が本來具へ居る五
智の功徳を開顯せ
んためなり。〔六〕伽陀
偈と譯す。

次に金篋を執て、彼れが前に在て住し、慰諭して歡喜せしめて、如來の〔六〕伽陀を説く
べし、佛子佛汝がために、無智の膜を決除したまふこと、猶し世の醫王の、善く金篋
を用ゆがごとし、持真言行者、復當に明鏡を執て、無相の法を顯さんがために、是の
妙伽陀を説くべし。諸法は形像なし、清澄にして垢濁なし、執無うして言説を離れた
り但因業より起る、是の如く此の法の、自性染汗なしと知れば、世の無比の利を爲す

汝佛心より生ず、次に當に法輪を授て、二足の間に置き、慧の手に法螺を傳へて、復
た是の如の偈を説くべし、汝自ら今日より、救世の輪を轉せよ、其の聲普く周遍せん
として、無上の法螺を吹くべし、異慧を生ずること勿れ、當に疑悔の心を離て、世間
に勝行の眞言道を開示すべし、常は是の如の願を作して、佛の恩徳を宣唱せよ、一切
の持金剛、皆當に汝を護念したまふべしと、次に當に弟子に、悲念の心を起すべし、
行者應に中に入て、三昧耶の偈を示すべし、佛子汝今より、身命を惜まざるが故に、
常に法を捨て菩提心を捨離し、一切の法を慳慳し。衆生を利せざる行をすべし、佛三
昧耶を説きたまふ、汝〔七〕善住戒者、自の身命を護るが如く、戒を護ることも亦是の如
し、誠を至して恭敬して、聖尊の足を稽首すべし、所作教に隨て行じて、疑慮の心を
生ずること勿れ。

〔七〕善住戒者とは
弟子なり。

國譯攝大儀軌卷第二 終

國譯攝大毘盧遮那成佛神變加持經大悲胎藏 轉字輪成三藐三佛陀入八祕密六月成就儀軌 卷第三

志心至心の義なり。

爾の時に婆誑鑊、毘盧遮那佛、持金剛手に告げたまはく、佛子志心に聽け、種子曼荼羅は、先づ阿字門を觀じ、轉じて嚩字、乃至一切の字を生じて、曼荼羅を成せよ、印契曼荼羅は、此を轉じて標幟と成す、餘の相は廣く經の如し、寶冠に手印を舉げよ、字門に住する者は、事業速に成就す。

曩莫三滿多沒駄喃、阿曩莫三滿多沒駄喃娑 曩莫三滿多嚩日羅赦嚩迦佉左瑳惹
嚩吒姪拏荼跢他娜駄跛頗麼婆野囉囉囉捨灑娑賀乞叉。

歸命前に同じ、阿娑嚩迦佉左瑳惹 嚩吒姪拏荼跢他娜駄跛
頗麼婆野囉囉囉捨灑娑賀乞叉。

歸命前に同じ、暗慘鑊劍欠儼紺占禱染擲龜帽喃喃淇擔探淡布

含普含暮含補含焰噴藍鑊苦鈿參哈吃鈿。

歸命前に同じ、惡索嚩脚卻虐伽作錯弱知鉅角坼角搦擇但託諾

鐸博泊漠藥略嚩嚩鏢索囉吃索。

伊縊鳩烏哩哩里狸賧愛汗與仰嬢拏曩菴喝穰俾曩怛哈髻喃
南鑊嘘弱搦諾莫。

祕密主當に知るべし、初の迦字輪從り轉じて十二轉を生ず、乃し吃叉字に至るまで、悉く法界の體と成る、此等の三味道、若し佛世尊と、菩薩救世者と、緣覺と聲聞とに住して説て、諸過を摧害したまふ、若し諸天世人の、眞言法教の道、是の如きは勤勇者、衆生を利せんがための故なり、等正覺の眞言は、言名成立の相、因陀羅宗の如くして、諸の義利成就す、増加の法句と、本名と行と相應することあり、若し唵字吽字及及び發磔迦、或は頤利媿等は、是れ佛頂の名號なり、若し揭唎俱拏と、佉陀耶と畔閑と、訶娜と摩羅也と鉢吒也等との類、是れ奉教使者の、諸の忿怒の眞言なり、若し納摩の字、及び莎嚩訶の字あるは、是れ三摩地を修する、寂行者の標相なり、若し扇多の字、尾成駄の字等あらば、當に知るべし能く一切の希願する所を滿足す、此れ

正覺佛子、救世者の眞言なり、若し聲聞の所説は、一一の間安布せり、是の中に辟支佛は、復少きの差別あり、謂く三昧分異にして、業生を淨除す。

復た次に、祕密主、如來は無量百千俱胝那庾多劫に、眞實諦語四聖諦四念處四神足十如來力六波蜜七菩提寶四梵住十八佛不共法を積集し修行したまへり、要を以て之を言はば、自願智力と、一切法界の加持力とを以て衆生に隨順して其の種類の如く、眞言教法を開示したまへり。謂ゆる阿字門は一切諸法本不生の故に、迦字門は一切諸法離作業の故に、佉字門は一切諸法等虚空不可得の故に、哦字門は一切諸法行不可得の故に、伽字門は一切諸法一合相不可得の故に、遮字門は一切諸法離一切遷變の故に、車字門は一切諸法影像不可得の故に、惹字門は一切諸法生不可得の故に、社字門は一切諸法戰敵不可得の故に、吒字門は一切諸法慢不可得の故に、姪字門は一切諸法長養不可得の故に、拏字門は一切諸法怨對不可得の故に、不茶字門は一切諸法執持不可得の故に、多字門は一切諸法如如不可得の故に。他字門は一切諸法住處不可得の故に、娜字門は一切諸法施不可得の故に、駄字門は一切諸法法界不可得の故に、波字門は一切諸法第一義諦不可得の故に、頗字門は一切諸法不堅如聚沫の故に、麼字門は一切諸法

(一) 大金剛輪六
大の中の地大に相當
す。

(二) 修多羅 梵語
Sutra 經を譯す。

縛不可得の故に、婆字門は一切諸法有不可得の故に、野字門は一切諸法一切乘不可得の故に、囉字門は一切諸法離一切諸塵の故に、囉字門は一切諸法一切相不可得の故に、囉字門は一切諸法語言道斷の故に、捨字門は一切諸法本性寂の故に、沙字門は一切諸法性鈍の故に、娑字門は一切諸法一切諦不可得の故に、訶字門は一切諸法因不可得の故に、吃又_合字門は一切諸法無有盡の故に、仰惹_合拏那麼等の句は一切の三昧に於て自在にして速に能く諸の事業義利を成辨す、如來の十號を具して大日尊の如く法輪を轉じ。品類相入して、常に世間を照すことを得、十號具足の伽陀に曰く、

薩嚩怛他癹妬囉賀帝 嚩三藐三母駄尾徐也左囉拏三波曩蘇議妬嚩迦尾娑拏怛囉補嚩
灑娜弭野 娑囉體舍娑多 禰嚩難 惹麼弩史 野南惹母駄婆誑。

爾の時に、大日尊、降伏四魔金剛戲三昧に住して、四魔を降伏し、彼の六趣を解脱し、一切智々を満足する金剛字句の眞言を説て曰く、普通の印。

曩莫三滿多沒駄喃 阿尾囉吽欠。

眞言者圓壇を 先づ自體に置き、足自り臍に至るまで、(一) 大金剛輪を成じ、此従り心に至るまで、當に水輪を思惟すべし、水輪の上に火輪あり、火輪の上に風輪あり、次に

(一) 斂とは一本には檢となる。

(三) 羯磨印等は經にはなし、恐らくは註の文ならん。

(二) 十二句 身分に字布する法なり。
(四) 三處 自身と所觀の法と成就時となり。

地を念持して、衆の形像を圖すべし、廣くは世間品の如し、眞言修行者、遍く修多羅を斂すべし。

爾の時に、金剛手、大日尊の身語意地に昇て、法平等の觀を以て彼の未來の諸の衆生を察て、大眞言王を説て、羯磨の印口から授く眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃 阿三摩波多達磨駄觀 譏底孕 譏多南 薩他他暗欠暗惡慘索
哈鶴嚙嚙鑊鑊婆嚙賀 吽嚙嚙賀羅嚙嚙婆嚙賀 嚙嚙嚙賀。

纔に眞言を説き已んば、一切の諸の如來、十方界に住して、各の古の手の臂をべて、頂を摩でて善哉と稱す、佛子汝今已に、大日尊の、自語意地行に超昇して、此の眞言王を説く。何を以の故に佛子、毘盧遮那佛、應正等覺者、本と菩提座に坐するとき、十二句の法を觀じて、四魔を降伏し、此の法界生の、三處より流出する句に於て、天魔の軍を破壊し、無邊の智を逮得し、自在に説法す、汝も今亦是の如し、正遍智に同じ、衆の爲に知識せられ、汝一切智、大日正覺尊に、最勝眞言の行を問ひまてまつりて、當に法教を演説すべし、我れ往昔是に由て、妙菩提を發覺し、一切の法を開示して、滅度に至らしむ、現在十方界の、諸佛咸く證知したまふ。爾の時に金剛手、大日尊に

(二) 是の伽陀 經に詳に在り。

(一) 等至三昧 大日如來大悲胎藏受茶羅莊嚴大會を示現する三昧なり。

(三) 摩尼幢 如意寶珠の幢なり。

(四) 瓔珞とは經には瓔珞となる。

(五) 信解 梵語の Abhinuk 深信、(仰信)に對し、智識を以て明らかに理を見ること。
(六) 十智力 佛及び菩薩の具ふる十種の智と十種の力なり。

請問したてまつる、聖天の位を決定する、秘密曼荼羅、唯だ願くは婆譏鑊、我がために開演したまへ。

(二) 是の伽陀を説き已んぬ。

爾の時に、大日世尊、等至三昧に入て、未來世の諸の衆生を觀じたまふが故に、定中に安住したまふ、即時に國土の平なること掌の如し、五寶間錯し、大寶蓋を懸て、門標を莊嚴す。衆色流蘇して其の相長廣なり、寶鈴と白拂と名衣と旛珮綺綺垂布して、之を校飾して、八方の隅に於て摩尼幢を建て、八功德水芬馥盈滿し無量の衆鳥鴛鴦鵝鵝和雅の音を出し、種種の浴池あり、時華雜樹敷榮し、間列して芳茂嚴好なり、八方に五寶の瓔珞を合せ繫けたり、其の地柔耍なること綿纒の猶如し、之を觸踐する者皆な快樂を受く、無量の樂器自然に韻に諧ひ、其の聲微妙にして人聞んと樂ふ所なり、無量の菩薩の隨福所感の宮室殿堂意生の座あり、如來の信解願力の所生なり、法界身其の中に安住し、諸の衆生種種の性欲に隨て歡喜を得せしめたまふ、時に彼の如來の一切の支分に無障闕力あり、十智力信解従り生ずる所なり、無量の形色の莊嚴の相なり、無數百千俱胝那由他劫の布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧の諸度の功德

百光遍照王の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄南暗（金剛掌にして臂を舒て頂に置き時に動搖すべし）

金剛手請問したてまつる、眞言行の菩薩、修行幾く時月にしてか、禁戒終竟ることを得、是の時に婆譏鏝のたまはく、善哉勤勇士、汝ち殊勝の戒を問ふ、古佛の開演したまふ所なり、明に縁て起る所の戒は、戒に住するときは正覺の如し、悉地を成ずることを得せしむること、世間を利せんがための故に、自の眞實を等起し、常に等引に住して、戒を修行すること當に竟るべし、菩提心と業と果と、和合して一相と爲り、諸の造作を遠離せよ、戒を具するは佛智の如し、此に異るは禁戒に非ず、諸法に自在を得、通達して衆生を利す、常に無著の行を修すれば、礫石と衆寶とを等くす、乃至落叉を滿すれば、所説の眞言教、時月等を畢へて、禁戒の量終竟るべし、最初には金輪に於て、大因陀羅に住して、常に阿字を觀すべし、當に金剛印を結で、乳を飲で以て身を資くべし、行者一月滿じて、能く出入の息を調へ、次に第二の月に於ては、水輪の中に嚴整して、輪圍九重を成ず、秋夕の月光の色なり、（囉字なり）應に蓮華の印を結び、醇淨の水を服すべし、次に第三の月に於ては、勝妙の火輪を觀じ、

三角にして威焰鬘あり、（囉字なり）

印は大慧刀を結で、不求の食を噉すべし、一切の罪を燒滅して、身語意を生ず。第四の月は風輪、（賀字なり）

行者常に風を服し、轉法輪の印を結で、心を攝して以て持誦せよ、金剛と水輪との觀は阿囉字なり。

瑜伽に依住す、是を第五の月となす、得と非徳とを遠離し、行者所著なくして、三菩提に等同なり、風と火との輪を和合して、（賀囉字なり）

衆の過患を出過す、復一月持誦すべし、此を第六の月と名く、亦利と非利とを捨つべし、釋梵等の天衆、遠く住して敬禮し、一切守護を爲す、人天藥草神、持明の諸の靈仙、翼侍して敎命に隨へ、羅刹七母神、一切障を爲す者、是の處の光明を見て、馳散すること猛焰の如し、恭敬して之を遠る、等正覺の眞子、一切自在を得て、難降の者を調伏すること、大執金剛の如し、諸の群生を饒益すること、觀世音に等同なり、六月満足し已て、所願に隨て成就す、常に當に自他に於て、悲愍して救護すべし。持念の分限畢て、珠を捧て大願を發すべし、加持して（二）五供、悅意の妙伽陀を陳べ、（三）た

（一）五供、五種の供養にて、一塗香、二華、三燒香、四飯食、五燈明。

この作禮眞實の言に由て即ち能く遍く十方の佛を禮したてまつる。右の膝を地に着け瓜掌を合して思惟して先の罪業を説き悔すべし、我れ無明に由て積集するところ身口意業にもろくの罪を造れり、貪欲恚癡心を覆ふが故に、佛と正法と賢聖僧と、父母と二師と善知識と及び無量の衆生との所に於て、無始生死流轉の中に具に極重無盡の罪を造れるを、親り十方現在の佛に對して、悉く皆な懺悔すまた作らず、

出罪方便の眞言に曰く、大慧刀の印

唵、薩嚩播波薩怖吒、娜訶曩嚩曰囉野、娑嚩賀。

十方三世の佛の三種の常身と正法藏と、

勝願菩提の天心衆とを南無したてまつる我れ今ま皆な悉く正しく歸依したてまつる

歸依方便の眞言に曰く、普印

唵、薩嚩沒駄冒地薩恒鏡、設囉赦菓車弭嚩曰羅達麼、頤唎。

我れ此の身を淨めて諸垢を離れたると及與び三世の身口意との、

大海と利塵との數に過ぎたるを一切諸の如來に奉獻したてまつる。

施身方便の眞言に曰く、獨股印

唵、薩嚩恒他菓多、布惹鉢囉嚩囉多曩夜恒麼南、涅哩夜哆夜弭、薩嚩但他菓多室者

地底瑟姪擔、薩嚩恒他菓多惹難謎阿味設視。

淨菩提心の勝願の富を我れ今ま起發して羣生を濟ふ。

生苦等の集に纏さるゝ身と及與び無知に害せらるゝ身とを。

救攝し歸依して解脱せしめ常に諸の含識を利益すべし。

發菩提心方便の眞言に曰く、

唵、胃地唧多、母恒跛娜夜弭。

十方無量の世界の中の諸の正遍知の大海衆の、

種々の善巧方便の力と及び諸の佛子の羣生の爲めに、

諸有ゆる所修の福業等とを我れ今ま一切盡く隨喜す。

隨喜方便の眞言に曰く、歸命合掌

唵、薩嚩恒他菓多、本若惹曩、弩暮捺那布闍迷伽三暮捺羅、薩厄羅傳三摩曳、吽。

我れ今ま諸の如來と菩提大心の救世者とを勸請したてまつる。
唯し願くは普く十方界に於て常に大雲を以て法雨を降したまへ。

勸請方便の眞言に曰く、金剛合掌

唵、薩嚩恒他葉多、睇灑傳布惹迷伽三暮捺囉、薩厄囉傳三摩曳、吽、

願くは凡夫所住の處をして速に衆苦所集の身を捨てしめ、

當に無垢の處に至て清淨法界身に安住することを得せしむべし。

奉請法身方便の眞言に曰く、金剛合掌 金剛合掌内縛して慧の頭指を以て鈎の如くして之を招け

唵、薩嚩恒他葉多、捺睇灑夜弼、薩嚩薩恒嚩係多唎他野、達磨駄觀悉體底唎囉鉢觀、

所修の一切の衆々の善業を一切衆生を利益せんが故に、

我れ今ま盡く皆な正しく廻向す生死の苦を菩提に至らん。

廻向方便の眞言に曰く、金剛合掌

唵、薩嚩恒他葉多、涅哩野恒曩布惹迷伽三暮捺囉、薩厄囉傳三摩曳、吽。

身の所應に隨て以て安坐して分明に(二)初字門を諦觀せよ、

次に當に三昧耶の印を結ぶべし、いはゆる三業道を淨除するなり。

(二)具には本初の字門と云ふべし、是れ九重月輪を觀する義なり。

眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿三迷、怛哩三迷、三麼曳、娑嚩賀。

纒に此の密印を結ば、能く如來地を淨む地波羅蜜滿して、

三法界道を成す次に法界生を結べ密慧の標幟なり、

身口意を淨むるが故に遍く身分に轉せよ、

彼の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、達磨駄觀、薩嚩婆嚩句、哈。

法界の自性の如く自身を觀せよ彼をして堅固ならしめんが爲めに、

自ら執金剛なりと觀せよ金剛輪の印を結べ、

金剛薩埵の眞言に曰く、

曩莫三滿多囉訶、囉訶、囉日羅、恒摩句、哈。

諦觀せよ我が此の身は即是れ執金剛なりと次に金剛の甲を損よ、

當に觀すべし所被の服體に逼して焰光を生ずと、

彼の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日羅蔽、唵嚩日羅迦嚩遮、訶。

羅字は色に鮮白なり、空點以て之を嚴れ彼の髻の明珠の如くして、之を頂上に置け、積む所の衆の罪垢是に由て悉く除滅して、福慧皆な圓滿す一切の觸穢の處に當に此の字門を加すべし。赤色にして威光を具す焰鬘遍く圍繞せり次に魔を降伏し、諸の大障者を制せんが爲めに、當に大護者無能堪忍の明を念すべし。眞言に曰く、

曩莫薩嚩但他葉帝毗藥、薩嚩佩也尾葉帝幣、尾濕嚩日契弊、薩嚩他、唵欠囉吃灑摩訶沫麗、薩嚩但他葉多奔尼也涅左帝、吽吽、恒羅吒但囉吒、阿鉢囉底訶誦、娑嚩賀。

纒に憶念するに由るか故に諸の毗那夜迦惡形の羅刹等彼れ一切馳散す地神を警發すべし是の如くの偈を説くべし雙膝長跪してこの手に杵を持ちて心に當て慧の手五指を舒べて掌を平にして

但鏝泥尾娑乞叉部路悉、薩嚩沒駄曩跢易南、左里也曩也尾勢曩數、部密播囉蜜哆速者、摩囉細便演但他婆葉喃、舍吉也僧咽曩跢易弩、但他賀摩囉惹演乞唵但嚩、滿拏

△この一定の手に杵を
持す一杵は三股杵
なり、警發地神の
神持次第廣攝淨等
の軌には汝天親護者
の頌文のみなり。

攬歷洛佉夜沒藥哈。

地神持次第の眞言に曰く、

唵部欠。

灑淨の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿鉢囉底娑謎、誦誦曩娑謎、三滿多弩葉帝、鉢囉訶哩底尾林弟、達摩駄觀尾戌駄額、娑嚩賀。

地神勸請の偈に曰く、

諸佛有情を慈愍したまふ者唯し願くは我等を存念したまへ、

我れ今ま諸の賢聖と堅牢地天と并に眷屬と、

一切如來と及び佛子とに請白したてまつる悲願を捨てずして悉く降臨したまへ、

我れ此の地を受ることは成就を求むればなり爲めに證明を作して我れを加護したまへ

持地の眞言に曰く、持地印

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩但他葉多地瑟吒、曩地瑟恥帝、阿佐麗、尾麼麗、娑麼囉彌、鉢囉訶哩底鉢哩輸睇、娑嚩賀。

人の聞ふことなきに佛自ら説きし法無間自説の言教。

(二)「字に因て」等は阿字本不生の生なり。

大毗盧遮那成佛神變加持經菩提幢印標幟秘密漫荼羅法品之一
 爾の時に世尊復又入秘密漫荼羅の法を宣説したまふ優陀那に曰く、
 眞言遍學者秘密壇を通達して法の如く弟子の爲めに、
 一切の罪を焼き盡さして壽命悉く焚滅して彼をして復た生せざらしめしむ、
 灰燼に同じ已て彼の壽命還復す謂く字を以て字を焼き、
 (三)字に因て更に生ず一切の壽と乃至清淨にして遍く無垢なり。
 十二支の句を以て彼れを器に作せ是の如くの三昧耶は、
 一切の諸の如來と、菩薩救世者と、及び佛の聲聞衆と、
 乃至諸の世間と、平等にして違逆せず此の平等誓の、
 秘密漫荼羅を解するときは一切の法教に入るに諸壇自在なることを得、
 我が身彼れに等同なり、眞言者も亦然なり相ひ異ならざるを以ての故に、
 説て三昧耶と名く現前に羅字を觀せよ謂く淨光焰鬘あり、
 赫として朝日の暉の如し、聲の眞實の義を念せよ能く一切の障を除て、
 三毒の垢を解脱す諸法も亦復然なり、先づ自ら心地を淨め、

(二)五支の字、五大
 下の種字なり、
 下は五大成身の觀
 を明す。
 (三)白色の月。

(三)壞劫の終りに
 起る大火災。
 (四)層間
 (五)「想」和明二本
 の經は相に作り、
 高麗本の經は今に
 同じ。

(六)首の中、等の
 三句經の持誦法則
 品に同じ、更に青
 軌を詳にせよ。

復た道場の地を淨めて悉くもろくの過患を除くべし其相虛空の如し、
 金剛の持する所の如く此地も亦是の如し、本尊の瑜伽に住して、
 加ふるに(二)五支の字を以てせよ等引にして運想せよ即ち牟尼尊に同じ。
 阿字は遍く金色なり用て金剛輪と作して下體を加持す。
 説て瑜伽の座と名く鏤字は(三)素月の光の如にして霧聚の中に在り、
 自の臍の上を加持す是を大悲の水と名く嚙字は初日の暉の如くにして、
 形赤にして三角に在り本心の位を加持す是を智火光と名く、
 陰字は(四)劫災の焰の如くにして黒色にして風輪に在り、(五)白毫際を加持す。
 説て自在力と名く、佉字及び空點は一切の色を成すと(六)想て、
 加持して頂の上に在り故に名けて大空と爲す五字を以て身を嚴れり。
 威徳の炬熾然にして衆々の罪業を滅除す天魔障を爲す者の、
 赫奕たる金剛と見る(七)首の中に百光王ををけ無垢眼を安立して、
 身を觀じて如來に同せしめ復た満足の句を念せよ、
 曩莫三滿多沒駄喃阿嚩訶哈欠。

(二) 非情界。

四五〇

(三) 慈伽 此には
刀と言ふ即ち大慧
刀の印なり。

(一) 器世間を安立せよ空風最も下に居す次に火と水と地とを觀せよ、
 是の輪金剛に同じ大因陀羅と名く光焰淨金色なり、
 管く皆な遍く流出す、爾の時に薄伽梵大衆會を觀察して、
 祕密主に告げて言はく法界の幟幟あり是に由て身を嚴るが故に、
 生死の中に巡歷すれども如來の大會に於ける菩提幢の幟幟たり。
 諸天龍夜叉恭敬の教を受く初めに佛三昧と、
 法界と及び法輪とを印す、(三) 慈伽は歸命合にして風を屈して空輪を加ふ。
 法螺は虚心合にして風空輪の上に絞へ吉祥願は蓮華なり、
 金剛は大慧の印なり摩訶は如來頂なり慧の拳は毫相藏なり。
 瑜伽は持鉢の相なり、智慧の手上に舒るを無畏施者と名く、
 下し垂るるを滿願と號す、慧の拳火と水とを舒へよ智者佛眼を成す。
 内縛にして風輪を索にす心の印は火輪を舒ぶ水を舒るは如來臍なり、
 内縛にして慧の水を舒ぶ是を如來腰と名く次の如く眞言を習せよ、
 大慧刀の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、摩賀竭伽尾囉惹、達摩珊捺囉奢迦娑訶惹、薩得迦野捺囉惹恥砌
 諾迦、但他葉多尾目吃底爾佐多、尾囉誑達磨爾惹多吽。
 大法螺の眞言に曰く、 曩莫三滿多沒駄喃暗。
 蓮華座の眞言に曰く、 曩莫三滿多沒駄喃阿。
 金剛大慧の眞言に曰く、 曩莫三滿多縛曰羅赦吽。
 如來頂の眞言に曰く、 曩莫三滿多沒駄喃吽吽。
 如來頂相の眞言に曰く、
 曩莫三滿多沒駄喃、誑誑曩難多娑回囉憐、尾鉢駄達磨爾惹帝、娑囉賀。
 毫相藏の眞言に曰く、 曩莫三滿多沒駄喃阿哈惹。
 大鉢の眞言に曰く、 曩莫三曼多沒駄喃婆。
 施無畏の眞言に曰く、
 曩莫三曼多沒駄喃、薩囉他余那余那、佩野曩奢那、娑囉賀。
 與願滿の眞言に曰く、
 曩莫三曼多沒駄喃、囉囉娜囉日羅但麼迦娑囉賀。

曩莫三曼多沒駄喃、但他藥多摩訶嚩吃怛囉、尾濕嚩枳孃曩摩護娜也、娑嚩賀。
如來牙の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、但他藥多能瑟吒囉、囉娑囉娑訖囉、參鉢囉博迦、薩嚩怛他嚩多、尾灑也參娑嚩、娑嚩賀。

如來辯説の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、阿振底也娜部多、路波嚩僧三麼哆鉢囉多、尾輸駄娑嚩囉、娑嚩賀。

如來持十力の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、捺奢沫浪誑達囉、卍三髻、娑嚩賀。

如來念處の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、但他藥多娑麼嚩底、薩怛嚩係怛嚩毗庾唵藥多、誑曩三麼三麼、娑嚩賀。

一切法平等開悟の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、薩嚩達麼三麼多鉢囉鉢多、但他藥多弩藥多、娑嚩賀。

普賢菩薩如意珠の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、參麼多弩藥多尾囉惹達麼備社多、摩賀摩賀、娑嚩賀。

慈氏菩薩發生普遍大慈三昧に住して自心の眞言を説て曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、阿爾單惹野、薩嚩薩怛嚩奢野弩藥多、娑嚩賀。

時に佛甘露生三昧に住して一切三世無閻力明妃の眞言を説て曰く、頂印

怛囉也他、誑曩三謎、阿鉢囉底三謎、薩嚩怛他藥多三麼跨弩藥帝、誑娜曩二摩、嚩羅落乞叉爛、娑嚩賀。

無能害力明妃の眞言に曰く、梵夾の印を以

曩莫薩嚩怛他藥帝毗藥、薩嚩目契毗藥、阿三迷、鉢羅謎、阿者曩、誑泥娑麼羅孃、

薩嚩怛囉弩藥帝、娑嚩賀。

佛國土を嚴淨し諸の如來に奉仕すべし諦に香水海を觀せよ、

大海の眞言に曰く、唵尾摩嚩娜地吽。

金剛手持華の眞言

嚩嚩囉曰羅播拏此は大眞言王の印なり

（一）内智は内五股の印なり、即ち内證の五智を表す。日、此は深義に在り、此は大眞言王の印とは口にあ

(二)正覺等經に
正等覺に作れり。

(三)佛に供ふる清
淨の水。

妙蓮華王を以て華藏界を持すべし、
 最初の(二)正覺等敷置の曼荼羅は密か中の秘密なり。
 大悲胎藏より生ず及び無量の世間と出世との漫荼羅の、
 彼の所有の圖像次第に説かん、當に聽くべし四方にして普く周布し、
 一門及び通道あらしめよ金剛の印を以て遍く嚴れり中に羯磨金剛あり、
 其の上は大蓮華あり妙色にして金剛の莖あり八葉ありて鬚葉を具し、
 衆寤自ら莊嚴せり開敷して果實を含めり彼の大蓮の印に於て、
 大空點を以て莊嚴せり十二支生の句普遍く華臺の中にあり、
 常に無量の光を出して百千の衆の蓮繞れり其の上に復た、
 大覺の師子座を觀想せよ、寤王以て校飾して大宮殿の中に在り、
 寤柱皆な行列して遍く諸の幢蓋有り珠鬘等交絡して、
 妙寤衣を垂れ懸たり周布して香華雲及び衆の寤雲あり、
 普く雜華等を雨して繽紛として以て地を嚴り諧韻にして愛聲有り、
 諸の音樂を奏す宮の中に淨妙の賢瓶と閻伽とを想へ。

寤樹王開敷せり照すに摩尼の燈を以てす三昧と總持との地に
 自在の姝女あり佛波羅蜜等なり菩提妙嚴の華あり。
 方便を以て衆伎を作し妙法音を歌詠して諸の如來を供養したてまつる、
 我が功德力と如來の加持力と及び法界の力とを以て、
 普く供養して而も住す。

次に虚空藏轉明普通印

大輪壇の印を結べ次に衆色界道、

囉アラ白色なり 囉アラ赤色なり 迦カ黄色なり 麼マ青色なり 訶カ黑色なり 音なり 界道
 囉アラ中なり 囉アラ幢なり 迦カ華なり 麼マ彌ミなり 訶カには金剛慧の印なり

觀せよ彼の中胎の内に諸尊の種子一一分明に安布せよ先づ圓光を想へ普光の淨月輪わ
 り、

清淨にして諸垢を離れたり中に本尊の形有り妙色にして三界を超たり、
 絹殺嚴の身服あり寤冠あつて紺髮垂れたり寂然にして三摩地にあり。
 輝焰あつて衆の電に過たり猶し淨鏡の内に幽邃にして眞容を現するが如し、
 喜怒哀形色に顯れ與願等を操持せり、正受と相應せる身、

疑くは偶頤を脱す
こ、今青軌上二十
二右八之れを朱書
す往て看よ。
（二）支分（五輪五
体即ち身体のこと
なり。

金剛の種子心を遍く諸の（二）支分に布せよ諸法離言説なり。
印眞言を具するを以て即ち執金剛に同し。

彼の眞言に曰く、五股三股

曩莫三曼多囉曰羅赦、戰拏摩訶摩訶嚕灑拏、吽。

遍身に甲を被服すとをもへ次に一心に摧伏諸魔の印を作すべし、

眞語と共に相應せよ慧の拳風輪を舒べて白毫の際に加せよ、

毗俱胝の形の如し、纔に是の法を結ぶが故に當に見るべし此の地に遍して、

金剛の熾燄の光ありと能く極猛利の無量の天魔の軍を除き、

及び餘の障を爲す者の必定して皆な退敬す怖魔の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、摩訶沫羅囉囉、捺奢囉路囉婆吠、摩賀味但哩也毗庚囉囉咳、娑

嚕賀。

次に難堪忍の密印明を用て結護せよ藏の密は水輪を散して、

旋轉して十方を指せ是を結大界と名く用て十方の國を持して、

能く悉く堅住せしむ是の故に三世の事悉く能く管く之を護る。

威猛なり能く觀るもの無し。

大界の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、薩嚩怛囉拏葉帝、滿駄野徒瞞、摩訶三摩耶涅羅者帝、娑摩囉囉

阿鉢囉底訶帝、駄迦駄迦、折囉折囉、滿駄滿駄、捺奢囉以羶、薩嚩怛他葉多弩枳惹

帝、鉢囉嚩囉達麼臘駄尾惹曳、婆誑嚩底、尾矩履尾矩縵、麗嚩補哩、娑嚩賀。

次に略説の眞言に曰く、

麗嚩補哩尾矩囉尾矩縵娑嚩賀。

四方四大護は無畏と壞諸怖と難降伏護者と、

無堪忍管護となり藏の印にして水の（二）甲を合し二風輪を散し舒べよ。

法幢高峯觀なり無餘の衆を哀愍す帝釋の方の華臺に、

嚩字ありて光あり轉じて無畏結護者と成る金色にして妙白衣なり。

面に少しき忿怒を現はす手に檀荼を持せり夜叉の方には博字あり、

壞諸怖結護なり、素衣にして潔白の色なり手に羯伽を持せり。

龍方には索字を觀じて轉じて難降伏と成る色無憂華の如し。

（二）「甲合」青軌
の意は「申べ」な
り。

(二) 毗俱具には
毗俱具なり此には
蔵言ふ。

朱衣なり微笑を現して衆會を觀す焰魔の方には唵欠、
無勝結護と成る黑色にして立き服衣なり(三) 毗俱の眉ゆに浪の文あり。
首に髮髻冠を戴き光り衆生界を照す手に檀茶の印を持せり。
及び一切の眷屬皆な白蓮華に坐せり眞言と及び密印とは、
前に已に開示するが如し門門に二りの守護あり無能は三昧の拳を、
翼を舉て輪開敷す智の拳は心にして風を舒べ相ひ擬る勢の如くせよ。
相對は慧の拳を舉げて狀ち相撃つ勢の如くせよ。
不可越守護の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩曰羅根、訥囉駄哩灑摩賀囉灑拏、佉捺野薩鑿娑但他葉多然矩嚩、娑嚩
賀。

相向守護の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩曰羅根、係阿鼻目佉摩賀鉢囉戰拏、佉那野緊旨羅也徒、三麼野麼弩娑
麼囉、娑嚩賀。

塗香の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、尾輸駄誑度納婆嚩、娑嚩賀。
華鬘の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、摩賀妹怛哩也、毗庚訥葉帝、娑嚩賀。
焚香の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、達麼駄怛嚩弩葉帝、娑嚩賀。
飲食の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿囉囉迦囉、未隣捺娜弭沫隣捺囉、摩賀沫灑、娑嚩賀。
燈明の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、但他葉多囉脂、娑叵囉嚩嚩娑娑囊、誑誑妹娜哩野、娑嚩賀。
虚空藏明姫普供養の眞言に曰く、

曩莫薩嚩但他葉帝嚩、尾濕嚩目契弊、薩嚩他欠、鳴娜葉帝薩叵囉係給、誑誑娜劔、
娑嚩賀。

毗盧遮那の位と及び行者の所居とに皆な海會の衆有り。

圍繞し(二) 端嚴にして位せば讚王は後に述るが如し、七遍之を誦說せよ。

(二) 「端嚴にして
位せば」は恐くは
「端嚴にして住せ
ば」ならむ。

曩莫三曼多沒駄喃、暗薩嚩沒駄胃地薩怛嚩、紇哩捺野、彌也吠奢彌、曩莫薩嚩尾泥、娑嚩賀。

虚空眼明妃の眞言に曰く、佛眼印

曩莫三滿多沒駄喃、唵譚譚曩嚩囉落訖叉彌、譚譚曩三迷曳、薩嚩觀唵葉哆、避娑囉三婆吠、入嚩囉那目伽難、娑嚩賀。

一切菩薩の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、迦薩嚩他、尾歷底、尾枳囉憐、達羅摩駄睹涅佐多、三三訶、娑嚩賀。

北方に觀自在の祕密漫荼羅あり佛子一心に聽け、

普遍く四方の相にして中に吉祥商佉あり鉢曇華を出生して、

開敷して果實を含めり承るに大蓮の印を以てせり光色皓月と、

商佉と車那華との如し微笑して白蓮に坐し髻に無量壽を現す、

普觀三昧に住せり蓮華部の眷屬あり最西の第一より、

馬頭觀自在と大明白身と多羅尊菩薩と、

「白處尊」已下は第三行なり故に青軌に初に次の字を加ふ。

(一) 彼は觀自在なり。

「白鮮」青軌には鮮白に作れり。

(二) 五色各各にして主色なきなり。

觀自在菩薩と毗俱胝菩薩と大勢至菩薩と蓮華部發生とを置け第一に寂留明と及び大吉祥明と、

大吉祥大明と如意輪菩薩と耶輸陀羅妃と窻觀波吉祥と大隨求菩薩とををけ白處尊菩薩と大吉祥變菩薩と水吉祥菩薩と不空羂索王と豐財菩薩等と白身觀自在と披葉衣菩薩とををけ、

(一) 彼の右の大名稱聖者多羅尊は青と白との色相ひ雜れり、
中年の女人の狀にせよ合掌して青蓮を持せり圓光遍せざることなし。

輝發せる事淨金のごとし微笑して白鮮の衣あり内縛にして空風を豎つ、
左邊の毗俱胝は手に數珠鬘を垂れ三目にして髮髻を持せり。

尊形皓素のごとし圓光あて(二)色無主なり黃赤白相ひ入れり、
前の印風輪を交へよ次に毗俱胝に近いて得大勢尊を畫け、

被服商佉の色なり大悲蓮華の手なり滋榮して敷けず、
圍繞するに圓光を以せり明妃を其側に住せしめよ持名稱者と號す。

一切の妙瓔珞金色の身を莊嚴せり鮮妙の華枝を執り、

左に鉢胤遇を持せり密印は明王に準して風輪を上舉て屈せよ、
聖者多羅に近いて白處尊を住せしめよ髮冠あつて純白を襲しめよ。

鉢曇摩華の手なり定慧虚心合にして空水を月の中に入れよ。

聖者の前に於て大力の持明王を作せ晨朝の日暉の色なり。

白蓮以て身を嚴れり赫奕として燄鬘を成し吼怒して牙出現せり。

利爪あつて獸王の髪あり印は白處尊の如くして風を空輪の下に移して、

相ひ去ること穢麥の如し地蔵は内に縛になして地水空竝へ合せよ。

觀自在菩薩の眞言に曰く、梵に阿彌路枳帝濕羅囉と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、娑囉嚩怛他葉多嚩路吉多、羯嚩儻麼野、囉囉囉吽惹、娑嚩賀。

多羅菩薩の眞言に曰く、嚩囉囉尼と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、耽羯嚩囉嚩婆吠、多隸多哩拏、娑嚩賀。

毗俱胝菩薩の眞言に曰く、勃哩俱胝と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、勃哩薩嚩婆野怛羅散儻、吽娑叵吒野、娑嚩賀。

大勢至菩薩の眞言に曰く、摩訶婆太摩鉢鉢鉢と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、三髻髻索、娑嚩賀。
耶輸陀羅の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、琰野輸駄囉野、娑嚩賀。

白處尊菩薩の眞言に曰く、半攀羅囉悉囉と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、半怛他葉多尾捨野三婆吠、鉢娜麼忙履囉、娑嚩賀。

賀野紇哩嚩の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、哈吽佉野畔惹、娑叵吒野、娑嚩賀。

地藏菩薩の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、訶訶訶、素怛努、娑嚩賀。

佛子諦に聽くべし次に(三)東の第三院に施願金剛壇あり、

四方の相均しく普くして衛らすに金剛の印を以てせり當に彼の中に於て、

(三)火生曼荼羅を作るべし内心に復た妙善青蓮の印を安置せり。

智者漫殊音の本眞言を以て之を圍らせ法の如く種子を布して

以て種子と爲す復た其の四傍に於て嚴飾するに青蓮を以てして、

(一)「第三」若し釋迦院を第三と言ふに依らば則第二ならん、但し今は現圖に約したるが故に施願金剛が即ち文殊なり。 (二)文殊は智徳なるが故に智父壇と云ふ意歟。

勤勇の衆を圖作せよ先づ妙吉祥を安せよ其の身鬱金色にして、
五髻を其の頂に冠らしめよ童子の形の如くせよ左に青蓮華を持せしめ。
上に金剛の印を表せよ慈顔にして遍く微笑して白蓮華に坐せり。

妙相にして圓普の光あり周帀して互に輝映せり佛の加持、

神力三昧王に住す及び無量の眷屬あり觀自在と普賢と、

對面護と對護と惹耶ジャヤと尾惹耶ビジャヤと囉母囉トロボ囉囉多ロロダと、

阿波羅而多アハラジダとなり北には光網菩薩次には冠菩薩と、

無垢光菩薩と月光明菩薩と五髻文殊等と烏波髻失ウハケイジ爾ニと奉教の諸菩薩となり(二)文殊師利

尊漫殊利菩薩文殊二使者と鈎召と四奉教とあり。

竝に鈎召の菩薩なり右の光網菩薩は、

衆の寶網を執持せり寶冠は寶印を持せり。

(三)左の蓮の無垢光は青蓮にして未だ敷けず前の印舒て微し屈せよ計設徐は刀を持せ

り、惹の拳風火を豎て烏波計設徐前の拳火輪を載の如にす、

地慧は持幢の印なり定の拳地水を豎てよ質多羅童子は、

(一)文殊師利尊の
句は再座位を出
す、漫殊梨菩薩の
句は未だ詳かなら
ず。

(二)左蓮、青軌に
は右蓮に作れり、
秘藏記の意赤同
じ、廣攝二軌は今
に同じ。

(二)五使者は謂く
計設徐已下の五尊
なり。

右の拳風輪を杖の如にす召請は風を鈎と爲す。

次に五種の奉教あり不思議童子は、

定慧内縛拳にして空風豎て相合せ。

風第三の節を屈す是の如く(三)五使者に、

五種の奉教者あり二衆共に圍繞して、

無勝智を侍衛せり文殊は三補吒の掌にして二火反して
二水の背を押して二風空輪を捻せよ

文殊師利菩薩の眞言に曰く、滿祖室哩沒駄マンジュシロモダと云ふ

曩莫三漫多沒駄喃、瞞係係矩摩羅迦、尾目吃底鉢他悉體多、娑麼囉娑麼囉、鉢囉底

然、娑嚩賀。

光網菩薩の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、髻係係矩摩囉、忙野藥多娑嚩婆嚩悉體多、娑嚩賀。

無垢光菩薩の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、係矩忙囉、尾質但囉藥底矩忙囉、麼弩娑麼羅、娑嚩賀。

計設戒の眞言に曰く已下の五童子は
文殊の使者なり

曩莫三滿多沒駄喃、枳履係係矩忙哩計、娜耶壞難娑麼囉娑麼囉、鉢囉底然、娑嚩賀。
鳥波計設你的真言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、你哩頻娜野壞難、係矩忙哩計、娑嚩賀。

地慧の真言に曰く、嚩素摩底也と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、唎哩係娑麼囉壞難計視、娑嚩賀。

質但囉童子の真言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、弭囉質多羅、娑嚩賀。

召請童子の真言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿迦囉灑野、薩鍍矩嚕阿然、矩忙囉寫、娑嚩賀。

(二) 不思議即ち五種の奉教者なり。

(二) 不思議童子の真言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿尾娑麼野俾曳、娑嚩賀。

行者左方に於て次に大名稱、

除一切蓋障大精進の種子を作せ。

謂く眞陀摩尼なり火輪の中に住せり。

(一) 除疑怪は謂ゆる賢護なり、或は曰く秘藏記に日光と言ふは是なり。

翼從して瑞嚴の衆あり當に知るべし彼の眷屬は、
悲愍慧菩薩と破惡趣菩薩と、
施無畏菩薩と賢護菩薩等と、
不思議菩薩と慈發生菩薩と、
并に折諸熱惱となり秘密の標誌、
次第に安布すべし名稱除障尊、
悲力三昧に住せり智と福と虚心合にして地水屈して月に入れよ尊の右の(一)除疑怪は内縛して火空を豎て寶瓶に一股を置くか如くせよ。

施無畏菩薩は施無畏の手に作せ。

除一切惡趣は定慧舒べて合掌せよ。

(三) 救護慧菩薩は悲の手の掌を心に在て、

直く空を豎て上に向く大慈生菩薩は、

慧の風空に華を持せり(四) 悲旋潤は右に置け、

(五) 悲念心上に在て火輪の指を垂れ屈せよ、

(一) 救護慧者は謂ゆる悲愍慧なり、或は曰く是れ賢護なり。
(二) 悲旋潤は經疏及び攝軌には悲念と曰く、秘藏記には悲念と曰ふ、青軌は今に同じ、(三) 悲念は蓋し今は手に名く。

除一切熱惱は垂施願の手に作せ、甘露の水流注して遍く諸指の瑞に在しめよ。次に不思議は無畏の手を以て、空風珠を持する状にせよ。

除一切蓋障菩薩の眞言に曰く、薩婆你囉拏尾囉銀遮云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、阿薩怛囉係多、弊囉葉多、但藍但藍藍藍、娑嚩賀。

除疑忙菩薩の眞言に曰く、號俱賀哩曇と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、訶娑難尾摩底制諾迦、娑嚩賀。

施無畏菩薩の眞言に曰く、薩婆薩怛囉婆闍那と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、囉娑難阿佩延娜、娑嚩賀。

除一切惡趣菩薩の眞言に曰く、薩嚩鉢也惹賀と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、特情娑難阿毗庚達羅拏、薩怛囉駄敦、娑嚩賀。

救護慧菩薩の眞言に曰く、跋哩怛囉拏捨也底云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、尾訶娑難係摩賀摩賀娑麼囉鉢囉底然、娑嚩賀。

大慈生菩薩の眞言に曰く、摩訶每嚩哩也毗欲曇迦云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、詔娑嚩制妬囉葉多、娑嚩賀。

悲旋潤菩薩の眞言に曰く、摩訶迦嚩拏莫囉拏多と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、閻迦嚩嚩沒囉呢多、娑嚩賀。

除一切熱惱菩薩の眞言に曰く、薩婆那買鉢羅捨弭曇云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、縵係囉囉娜、嚩囉鉢囉鉢多、娑嚩賀。

不思議慧菩薩の眞言に曰く、阿進底也摩底囉難多と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、汗薩嚩捨鉢哩布囉迦、娑嚩賀。

國譯玄法寺儀軌卷第一 終

「神變」の次恐くは加持の二字を脱す。

「嚴」經に嚴に作れり。

國譯大毘盧遮那成佛神變經卷第二 菩提幢密印標幟曼荼羅品之二

北方の地藏尊は其の座極めて巧嚴ならしめよ、身を骸胎に處す雜寶を以て地を莊嚴せり、綺錯して互相ひに間へたり四寶を以て蓮華と爲す。

聖者の安住し玉へるところは金剛不可壞、

行境界三昧なり及與び大名稱の、

無量の諸の眷屬あり日光明菩薩と、

堅固心菩薩と並に持地菩薩と、

寶手菩薩等と寶光明菩薩と、

寶印手菩薩と不空見菩薩と、

除一切憂冥となり祕密は内に縛になして火輪を舒べ散せよ右には寶處尊を觀せよ、慧の拳三輪を舒べよ寶の上の三股の印なり、

(一) 審掌 は即ち寶手なり。
(二) 持地及び審印手は三形手印を合説す宜しく知て行すべし。
(三) 金剛印は金剛部三昧耶の印なり

(一) 審掌は審の上に於て一股金剛の印なり。慧の拳水輪を舒べよ(二) 持地は右の審の上に、二手を以て(三) 金剛の印をなせ、審印手は審の上に、

五股金剛の印をなせ堅固意は右の審に、羯磨金剛の印をなせ前の印諸輪合せよ、

地藏菩薩の眞言に曰く、ビサバ、アハシヤ、ハリ、ホラキヤ 尾薩婆捺鉢里布囉迦と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、カカカ、カ、ビ、サマ、マ、エ 訶訶訶尾娑麼曳、娑嚩賀。

寶處菩薩の眞言に曰く、アラタン、ウキヤ、ラ 囉怛囉迦囉と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、ダシム、ア、イ、マ、カ、マ、カ 難髻係麼賀麼賀、娑嚩賀。

審手菩薩の眞言に曰く、ナラタン、ウ、ハニ 囉怛囉播拏と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、サン、アラ、ンド、ウ、ド、バ、ム、ハ 衫囉怛怒囉婆嚩、娑嚩賀。

持地菩薩の眞言に曰く、ダラム、ガ、ラ、セ、ン 駄囉拏駄囉拏と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、ダム、ダ、ラム、ガ、ダ、ラ 唵達囉尼達囉、娑嚩賀。

審印手菩薩の眞言に曰く、アラ、ダ、ン、ウ、ホ、タ、ラ、カ、サ、タ 囉怛囉誤捺囉賀薩多と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、唵囉但曩你嚩余多、娑嚩賀。

堅固意菩薩の眞言に曰く、アリダチヤ 涅哩茶地也捨也云ふ。

曩莫三滿多沒駄喃、根嚩日羅三婆嚩、娑嚩賀。

西方の虚空藏は勤勇にして白衣を被たまへり。

圓白にして悦意の壇なり、大白蓮華の座あり。

大慧刀の印を持せり、かくの如くの堅利の刃は、

鋒鋭れること猶し氷霜のごとし、清淨の境界に住したまふ。

自の種子を種となす、智者尊の北に、

檀波羅蜜菩薩と戒波羅蜜菩薩と忍波羅蜜菩薩と精進波羅蜜と禪波羅蜜菩薩とを布せ

よ、般若波羅蜜と方便波羅蜜と願波羅蜜菩薩と力波羅蜜菩薩と智波羅蜜菩薩とあり、

金剛藏王菩薩と蘇悉地羯羅と金剛針菩薩と蘇婆呌菩薩と無垢逝菩薩とあり發意轉法輪

と生念處菩薩と忿怒鉤菩薩と不空鉤自在と千眼觀自在とあり、曼荼羅菩薩と金剛明王

菩薩と金剛將菩薩と軍荼利菩薩と不空金剛菩薩とあり、供養寶菩薩と孔雀明菩薩と一

介羅利王と十一面自在とあり。

介恐くは是れ誓、

印形法教の如くせよ、次に虚空無垢は、

二手を以て刀印に作れ、(三補吒にして空風を捨す) 虚空慧は法輪にせよ、清淨慧は商法にせよ、行

慧は敷蓮華にせよ、安住慧菩薩は多羅の印を稍開け、

虚空藏菩薩の眞言に曰く、(能く自心の本性清淨を知るを以て空衆色を含むるも如くに形群生を利す)

曩莫三曼多沒駄喃、伊阿迦奢三麼多弩曩多尾質多嚩嚩囉達羅、娑嚩賀。

虚空慧菩薩の眞言に曰く、ギヤヤナクマテ 誦誦曩摩帝と云ふ。

曩莫三滿多沒駄喃、陵斫吃囉嚩喇底、娑嚩賀。

蓮華印菩薩の眞言に曰く、普印

曩莫三滿多沒駄喃、俱嚩囉野、娑嚩賀。

清淨慧菩薩の眞言に曰く、ビシユダマテ 尾戍駄摩帝と云ふ。

曩莫三滿多沒駄喃、曩丹達麼三婆嚩、娑嚩賀。

行慧菩薩の眞言に曰く、ギヤリタ 惹哩怛囉囉摩帝と云ふ。

曩莫三滿多沒駄喃、地嚩鉢納麼阿囉野、娑嚩賀。

安住慧菩薩の眞言に曰く、惹悉批羅沒弟

縛恐くは衍文

惹悉批等の梵名未
た詳かならず

曩莫三滿多沒駄喃、クムシヤダ 吽攬弩納婆嚩、ドバム 娑嚩賀。

出現智菩薩の眞言に曰く、普印、又蘇悉地菩薩と名く、身印なるべし、又通印を用ふ

曩莫三滿多沒駄喃、ジバ 余嚩曰羅悉體囉沒弟。

ホラバ 布囉嚩嚩但麼滿但囉娑囉、ママンダラ 娑嚩賀。

執蓮華杵菩薩の眞言に曰く、普印

曩莫三滿多駄喃、バ 嚩曰囉迦囉、ケラ 娑嚩賀。

檀波羅蜜菩薩の眞言に曰く、右を仰いで忍禪相持せよ

唵婆譏嚩底娜、ナ 曩地跛帝、ビ 尾爭唵惹布羅野娜難、ヤ 娑嚩賀。

一戒波羅蜜菩薩の眞言に曰く、内轉にして禪智堅てよ

唵試囉駄哩拏、バ 婆譏嚩底吽、ケム 郝。

忍波羅蜜菩薩の眞言に曰く、内轉にして進力禪智を堅てよ

唵婆譏嚩底、バ 乞鉢底駄哩拏、ケム 吽發吒。

精進波羅蜜菩薩の眞言に曰く、前の忍に準じて進力析き開け

唵尾哩野迦哩吽、ビ 尾哩奇尾哩奇、エイ 娑嚩賀。

禪波羅蜜菩薩の眞言に曰く、右を仰て左にかけ禪智相拄ひよ

唵婆譏嚩底、バ 薩嚩播婆賀哩拏、マ 摩賀奈底曳吽吽發吒

般若波羅蜜菩薩の眞言に曰く、左を平かに舒べて右を左の上に覆せて心に當つ

唵地室哩、シ 輸嚩多、ビ 尾惹曳、シ 娑嚩賀。

方便波羅蜜菩薩の眞言に曰く、左の慧方智度を掲り右も亦準じて忍願相背け進力平かに舒べて側め相拄へよ

唵摩賀每但囉啣帝、マ 娑嚩賀。

願波羅蜜菩薩の眞言に曰く、右の手直く堅て施無畏にせよ

唵迦嚩拏迦嚩拏賀賀賀、

一力波羅蜜菩薩の眞言に曰く、戒の印に準じて禪智進力忍願堅て頭と相合せよ

唵娜麼頼母你帝吽賀賀賀吽弱。

智波羅蜜菩薩の眞言に曰く、外に又へて拳に作して檀慧直ぐ堅て交へて少分風し進力頭と風して圓かに忍願堅て相合せよ

唵麼麼枳娘曩迦哩吽、マ 娑嚩賀。

また次に秘密主、今ま第二の壇を説かん正等にして四方の相にして金剛の印圍遶せり、一切妙にして金色なり、内心に蓮華敷けたり、臺に迦維奢を現す、光色淨月の如し、

汝は謂く金剛薩埵なり

無垢持金剛以下は第二の行なり

金剛持輪已下は第三の行なり

部母已下は契印手印を合説す宜しく知て行すべし

左は即ち金剛薩埵の左なり

亦大空點を以て、周帀して自ら莊嚴せり、上に大風の印を表す、瓊鬘として猶し玄雲のごとし、鼓動せる幢幡の相あり、空點をて標幟となす、其の上に猛焰を生ず、劫災の火に同じ、三角形になし、三角以て之れを圍らせ、光燄の相周普くし、晨朝の日暉の色あり、是の中に鉢頭摩あり、朱鬘なること猶し劫火のごとし、彼の上に金剛の印あり、流散して焰暉を發す、持するに吽字の聲を以てせよ、勝妙の種子の字ををけ、先づ佛是れ汝ち勤勇の漫荼羅なりと説きたまふ、忿怒金剛の衆あり、次に東の第一より發生金剛部と金剛鉤菩薩と手持金剛菩薩と金剛薩埵菩薩と持金剛鋒菩薩と金剛拳菩薩と忿怒月壓菩薩とを布け、無垢持金剛と金剛牢持菩薩と忿怒持金剛と無邊超越菩薩と金剛鎖菩薩と持金剛菩薩と住無戲論菩薩とををけ、金剛持輪菩薩と金剛銳菩薩と適悅持金剛と金剛牙菩薩と、離戲論菩薩と持妙金剛菩薩と持金剛利菩薩とををけ、部母忙莽鷄は、亦堅慧の杵(三股)を持せり、身を嚴るに瓔珞を以てせり、彼の右に金剛針ををけ、使者衆圍繞して、微笑じて同しく瞻仰せり、獨股堅利の慧なり、内拳にして風輪(空は入)を申べ、左には高住維を置け、金剛鎖を執持せり、自部の諸使と俱なり、其の身は淺黃色なり、智杵を標幟となす、四輪背け相ひ又へて、旋轉して慧を定

二空等の句は是れ月鬘の印なり

下は謂く右の第二、三股は左の第一、皆手の所持物を説くなり

に加へよ、執金剛の下に於て、忿怒降三世あり、大障を摧伏する者なり號して月壓尊と名く、三目にして四牙現し夏時の雨雲の色にして、阿吒吒の笑の聲あり、金剛窟を以て瓔珞なし衆生を攝護するが故に、無量の衆圍遶せり、乃至百千の手あり、衆の器械を操持せり、かくの如くの忿怒等はみな蓮華の中に住せり、二空開いて風を持す、五古の印に準じて、諸の金剛は持地なり、金剛拳は内縛にせよ二空并べて、二肘相ひ近け、少し相ひ到らず、忿怒軍荼利は、瑩として碧頗梨の如し、威光劫火の如く、赫奕として日輪を背かし、眉を擧め笑怒の容にして、虎牙上下に現じ、千目あつて視ること瞬かす、威曜盛なること日の如し、千手に各の金剛の諸の器械を操持せり、金剛窟を首冠とし、龍の瓔虎皮の裙ありて、月輪の中に在り、瑟瑟の盤石に坐せり、忿迅俱摩羅は青蓮華に住せり、身黄金色になせ、髮赤にして上に撩亂たり、瓔珞と劍とを以て身を嚴り、虎皮を用て跨に縵せり、慧には杵定は無畏なり、纒に眞言句を持すれば化佛口より出づ、次に烏菟沙摩は大忿怒の形になし、黒色にして火焰起れり、右には劍下は縑索棒及び三股又なり、器械皆な焰起れり、奉教等の金剛あり、是の如き等を上首として十佛殺塵數の持金剛衆と俱なり。

金剛手菩薩の眞言に曰く、縛日羅跋拈云ふ

曩莫三滿多嚩日羅根、唵嚩日羅播拈嚩日羅薩怛嚩吽。

忙莽鷄金剛の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日羅根、怛哩吒怛哩吒、惹衍底、娑嚩賀。

金剛針の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日羅根、薩嚩達麼徐嚩吠達徐嚩日囉素余嚩囉稱、娑嚩賀、

金剛鐲の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日羅根、吽滿馱滿馱野、冒吒冒吒野、嚩日嚩娜婆吠、薩嚩怛囉鉢鉢囉底

賀帝、娑嚩賀。

降三世金剛の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日囉根、紇林吽泮吒、娑嚩賀。

一切持金剛の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日囉根、吽吽吽、發吒發吒髻髻、娑嚩賀。

金剛拳の眞言に曰く、

曩莫三滿多嚩日羅根、娑怖吒野嚩日羅三婆吠、娑嚩賀。

一切奉教金剛の眞言に曰く、

曩莫三曼多嚩日羅根、係係緊旨囉拽徒、疑哩恨拏疑哩恨拏、佉娜佉娜、鉢哩布羅野、薩嚩緊迦囉根、娑嚩鉢鉢囉底尾然、娑嚩賀。

次に西方に往て無量の持金剛を畫け、種種の金剛印と形色と各の差別せり、普く圓淨の光を放つ、諸の衆生のための故に中に般若尊を置け、不動の曼荼羅は風輪なり、火と俱なり、涅槃底の方に依て大日如來の下に不動如來の使ををけ、慧刀縞索を持し、頂髪左の肩に垂れたり、一目にして諦に觀、威怒にして身猛焰あり安住して盤石に在り、面門に水波の相あつて充滿せる童子の形なり、光焰火界の印なり、風方に忿怒尊あり、いはゆる勝三世なり、威猛にして焰圍繞し冠冠にして金剛(結)を持せり、自の身命を顧みず、專請して教を受く、般若の右邊に焰曼威怒王を置け、青水牛の座に乗じ種種の器械を持し鬪骸を瓔珞となし、頭冠あつて虎皮の裙あり、身に遍して焰あつて洞然たり、四方を顧視すること師子の奮迅するが如し、次の右に降三世あり。

唵地、室哩、輪嚕多、尾惹曳、娑嚩賀。

不動尊の眞言に曰く、銀印なるべし。

曩莫薩嚩怛他葉帝毗樂、薩嚩目契毗樂、薩嚩他、怛囉吒、贊摩賀路灑拏、欠佉咽
佉咽、薩嚩尾覓喃、怛囉吒、憾捨。

勝三世金剛の眞言に曰く、金剛界の降三世なり。

曩莫三曼荼嚩囉報、訶訶訶、尾娑麼曳、薩嚩怛他葉多尾灑野三婆吠、怛囉路枳也
尾若也、吽惹、娑嚩賀。

大威德金剛の眞言に曰く、熾受福迦云ふ。

曩莫三滿多嚩囉報、紇喇、瑟置喇、尾訖哩多那曩吽、薩嚩設哩嚩娜捨野、薩嚩
婆野娑擔婆野、娑叵吒娑發吒、娑嚩賀。

金剛印は三股杵なり

持眞言行者、次に第三院に往く、東方の初門の中に釋迦師子の壇あり、謂く大因陀羅
なり、妙善眞金色にして四方の相均等なること前の如し、金剛印ををけ、上に波頭摩
を現せよ、周巾してみな黃暉あり金剛印を以て圍繞せよ紫金光聚の身三十二相を具せ
り、袈裟衣を被服し、白蓮花臺に坐せり、教をして流布せしめんが爲に彼こに住して

此の釋迦院の座位
秘藏記と相照して
行ぜよ

「井に喜と捨と」
は恐くは「喜と井
に捨と」の寫誤な
らむ

法を説く(鉢の印)智の手は吉祥の印(空、水を持す)にして寤處の三昧(眷屬同じ)虚空と
觀自在、無能勝と并に妃とあり、次の北には如來寤と如來豪相尊と、大轉輪と光聚と
無邊音聲佛と、如來悲と慈と慈とあり、左には白傘蓋佛と、勝佛と最勝佛と、高佛と
摧碎佛と、如來舌と語と笑と寤の上には爍乞底と梅檀香辟支と多摩羅香等と、目蓮と
須菩提と、迦葉と舍利弗と、如來并に喜と捨と、傘の上には如來牙と、輪輻辟支佛と、
寤輻辟支佛と拘絺羅と阿難と、迦旃と憂波離と、智と供養雲海とあり。

釋迦牟尼佛の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、娑、薩嚩吃哩捨囉素娜曩、薩嚩達麼嚩始多鉢囉鉢多、誑誑曩三
麼三麼、娑嚩賀。

次に世尊の右に於て、遍知眼を顯示せよ熙怡の相にして微笑し、遍體に圓淨の光あり、
喜見無比の身なり、是を能寂母と名く、

彼の眞言に曰く、内轉して火を中へ風を扇して火
の背に在て一夢ばかり相到らず
曩莫三滿多沒駄喃、怛他誑多作乞菟、尾野嚩路迦野、娑嚩賀。

次に毫相明を寫せ、鉢頭摩華に住せり、圓照ありて商佉の色なり、如意寶を執持して、

衆の希願を満足したまへり、慧の拳眉間に置き、

風指節 彼の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、嚩囉泥、嚩囉鉢鉢帝吽、娑嚩賀。

一切諸佛頂は慧の手指の峯を聚めて頂に置いて密印を成す。

彼の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、鍍鍍鍍、吽吽吽、泮吒、娑嚩賀、

救世釋師子の次の南に五佛頂あり、白傘は慧の風眞金を豎て、定の掌覆ふて蓋の如くせ

よ、勝頂は前の刀印補金なり三なり最勝の印は金輪淺なり、光聚は如來頂白なり、捨除は智を

拳白なりと成し、風輪屈して鈎の如くせよ、

復た毫相の北に於て、三佛頂を安布せよ廣大發生頂は前の蓮華印に同じ、極廣廣生頂

は、五智金剛印なり、無邊音聲頂は即ち前の商法の印なり。

白傘蓋佛頂の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、嚩囉、悉怛多鉢怛囉嚩囉瑟尼灑、娑嚩賀。

勝佛頂の眞言に曰く、

「風指節」は寫誤して脱せり實軌には風指を申べて空に在り云ふに作れり

「眞金」は即ち白傘佛の形眞金色なり下皆之れに準ぜよ三補吒は印母即ち大慧刀なり

曩莫三滿多沒駄喃、苦、惹欲嚩瑟尼灑、娑嚩賀。

最勝佛頂の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、施奈、尾惹欲嚩瑟尼灑、娑嚩賀。

光聚佛頂の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、怛陵帝儒羅施嚩瑟尼灑、娑嚩賀。

除障佛頂の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、訶唎、尾枳囉拏半祖嚩瑟尼灑、娑嚩賀。

廣生佛頂の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、吒嚩吽、嚩瑟尼灑、娑嚩賀。

發生佛頂の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、輸嚩吽、嚩瑟尼灑、娑嚩賀。

次に聲聞衆を布せよ、梵夾を幪幪（左に在り）となす。

彼の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、係略鉢羅底也野、尾葉多、羯麼涅惹多、吽。

また縁覺衆を置き、内縛に火輪を豎て、圓滿にせよ錫杖の相なり。
眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、嚩。

釋迦牟尼の前に、無能勝及び妃あり、明王は智を、蓮を持するが如くせよ(風空捻じて火を風せよ)
定の掌外に向けて舒べよ(頂より高くす)黒蓮を上(黒色にして刀をに在く、妃の密は勝の大口なり持せり内縛して一空を豎て
阿、跋囉尔多の如くすの眞言に曰く、

阿、跋囉尔多の如くすの眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃吽、地嚩地嚩、唧嚩唧嚩、娑嚩賀。

無能勝妃の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿跋囉尔帝、惹愆底怛泥帝、娑嚩賀。

次に東北方に於て、淨居衆を布列せよ、自在は思惟の手にせよ(頭を側めて手に就く)普華は風火差
らせ(火入て胸の前側つ)光鬘は空を掌(前側つ)に在く滿意は空風を華の如くせよ、遍音空を水に加ふ、
火風以て耳に掩ふ、(兩の耳)

自在天子の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、唵播囉爾怛麼囉底毗樂、娑嚩賀。

普華天子の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、摩弩羅摩、達麼三婆縛毗婆嚩、迦託迦託娜、三三忙絳泥、娑嚩賀。

賀。

光鬘天子の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、惹都郎姪寫難、娑嚩賀。

滿意天子の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿唵唵唵唵、娑嚩賀。

遍音天子の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、唵阿婆薩嚩隸繫、娑嚩賀。

行者東の隅に於て、火仙の像を作れ、熾焰の中に住せり、三點の灰を以て標となす、
身色みな深赤なり、心に三角の印を置き、慧には珠定には、瓶を操る、印を掌にし、
定には杖を持す、青羊をもて座となす、妃后左右に侍せり、婆藪仙仙の妃と阿詣囉と
瞿曇と、阿底哩與仙と、及び毗哩瞿仙とあり、次に自在女と、毗紐夜摩女と、賢と摩

「捺」廣攝二軌に
は、今に同じ
「印を掌にし」は
三角の印掌に在り

「黒暗天」さ下の
黒夜と同異詳かな
らず

「九頭龍の印に準
ぜよ」の一句書軌
には之を注として
書せり、最も可な
り
「地」は經及び廣
青三軌にはみな水
に作れり、疏は今に
同じ

羯と二魚と、羅喉と阿伽羅と、大主と訶悉多とを置く、次に摩伽と七曜衆と、開錯と自記
と質桓羅と、果得と尾舍佉と、藥叉持明衆とを置き、次には增長天王あり、南門には難
陀龍と、烏波大龍王と、并に二の修羅王あり、門に近くして黒暗天あり、次には焰魔
羅王あり、手に檀拏印を持せり、水牛を以て座となす、震雷玄雲の色あり、七母と并
に黒夜と、死后と妃と圍繞せり、奉教と鬼衆の女と、鬼衆と拏吉尼と、成就大仙衆と、
摩尼阿修羅と、及び阿修羅の衆と金翅王と并に女と、九頭龍の印に準せよ、鳩盤茶と
及び女とあり、火天は空を掌に在け、縛思等の仙の印は空、地の二節二を持す、次第
に開敷して逼せよ(先づ頭指)焰魔は定慧合して地風雙べて月(空風して火)に入れよ七母は
三昧を拳にして空を抽んで立てよ鈍の印なり、暗夜は三昧を拳にして風火并べてみ
な申べよ、焰魔妃后は鐸なり、慧の手五輪を垂れて健吒の相の如くせよ茶吉尼は空の
掌、爾賀縛を以て之れを觸れよ、
火天の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、阿擬曩曳、娑嚩賀、
后の眞言に曰く、

「縛斯」は即ち婆
數なり

「阿跋哩」は上に
阿底哩と曰ふ

「驕答摩」は即ち
翫曇なり
驕答摩の前に尾哩
俱な脱する辨攝軌
の如し
「藥栗伽」は上に
阿詣羅と云ふ

曩莫三滿多沒駄喃、阿起禰曳、娑嚩賀。
縛斯仙の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、縛斯瑟吒唎釤、娑嚩賀。
阿跋哩仙の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、惡帝羅也摩訶唎釤、娑嚩賀。
驕答摩仙の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、婆哩輸怛摩摩訶唎釤、娑嚩賀。
藥栗伽仙の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、俱怛摩摩訶唎釤、藥唎伽、娑嚩賀。
增長天王の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、唵尾嚕唎迦、藥乞叉地跋多曳、娑嚩賀。
閻魔王の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、嚩嚩娑嚩多野、娑嚩賀。
死王の眞言に曰く、

(一)「地神は毒瓶
な持せり」已下多
くは契手の二印を
合説せり。
(二)「寶髻」經及び
廣攝青三軌には費
拏に作れり、梵音
相通す。

て相加へよ、(一)地神は毒瓶を持せり、辯才は即ち妙音なり、慧の風空を持して運動すること樂を奏するが如くせよ、彼の天の(三)寶髻の印なり、那羅延は輪を持せり、定の掌以て舒へ散せよ、後の契は空、風を持して、圓滿にすること輪の勢の如くせよ、塞建は童子と翻す、三首にして孔雀に乘せり。商羯羅の戟の印なり、定の空自の地に加へよ、(三)指散じて空地の甲を捨する(加さず、對し合すな持と云ふ)後の印は空地を持せよ、妃の密は三輪を開け、遮文茶は定の掌仰いで劫波羅を持せり、月天は三昧の印(觀音の半印)白蓮華を持せり、宿の密は火空を交へよ、縛庚は風天幢なり、智拳地水を豎てよ、みな眷屬圍繞せり、廣目天の眞言に曰く二拳背け相ひ合せ空火輪の甲を押し風交へ申べて衆の如くし空を以て召け

水天の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、唵尾嚕博乞叉、那伽地波踰曳、娑嚩賀、

曩莫三滿多沒駄喃、阿播鉢多曳、娑嚩賀、

難陀拔難陀の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、銘伽捨爾曳、娑嚩賀、

地神の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、鉢哩體火曳、娑嚩賀、

妙音天女の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、蘇羅娑嚩帶曳、娑嚩賀、

那羅延天の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、尾瑟拏吠、娑嚩賀、

後の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、尾瑟拏弭、娑嚩賀、

月天の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、戰捺羅野、娑嚩賀、

二十八宿を請する眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、唵阿瑟吒尾孕設底喃諾乞察但囉毗藥、徐曩嚩曳、摘計吽惹、娑嚩賀、

摩醯首羅天の眞言に曰く、

(二)羽外に相ひ又へて右左を押(直く地風空を駈て召を成す)

曩莫三滿多賀駄喃、唵摩係濕嚩囉野、娑嚩賀、

烏摩余妃の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、烏摩余弭、娑嚩賀、

風天の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、嚩野吠、娑嚩賀。

眷屬諸仙二十八天八部の眞言大曼荼羅圖の中に在り。

北方の門内に難陀と烏波との龍と、俱妃羅と並に女とを置き、次の西に^{天帝釋衆}乞維釋衆の諸の眷屬と明女と歌と樂天と、摩睺羅樂天と、摩睺羅伽衆と、成就持明仙と、持鬘と並に天衆と、他化と兜率天と、光音と大光音とあり、門の東に毗沙門と、吉祥功德天と、八大藥叉衆と、持明仙と仙の女と、百藥と愛才等と、賢鉤と本方の曜と、並に阿濕毘伽と、多羅と滿者と百と、十二の屬の女天と、螭蟹と師子との衆と、大戰鬼と大白と、毘那夜迦等と、摩訶迦維天とあり、多聞は虚心合にして雙地掌に入れて交へ、空樹て、風側よばに屈して一寸ばかり相ひ著けず、左に一切藥叉あり、定の拳風鉤の如くせよ、(一)一切藥叉女は掌を舒へて空地を持して風空輪の節を捻せよ亦是手を合して作す門の東に毗舍遮あり、定の拳火輪を申べて、前の印火輪屈するを即ち毗舍支と名く、又大藥叉

印一切藥叉の
大藥叉の印を出せ
此に大藥叉を出し
て一切藥叉を出し
大藥叉の如きは即ち入
なり此の如きは即ち入
の印なり。一切經の

の印は定慧内に又へて拳にして水豎て、二風屈せよ、

多聞天王の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、昧室羅摩拏野、娑嚩賀。

諸藥叉の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、藥乞囉濕嚩羅耶、娑嚩賀。

諸藥叉女の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、藥乞叉尾你也達哩、娑嚩賀。

諸毘舍遮の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、毘舍遮藥底、娑嚩賀。

諸毗舍支の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、毗旨毗旨、娑嚩賀。

東北には伊舍那と、眷屬の部多等とあり、戟の印なり三昧を拳にして火風を豎て、背を屈せよ。

伊舍那天の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、嚕捺囉野、娑嚩賀。

諸步多の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、唵唵唵伊、藥惱散寧、步多南、娑嚩賀。

東門に帝釋天あり、妙高山に安住せり、寶冠あつて瓔珞を被り、手に獨股杵を持す、天衆自ら圍繞せり、左に日天衆を置き、八馬の車輅の中にあり、二妃は左右にあり、逝耶と毗逝耶となり、摩利支は前に在り、識處と空處天と、無所と非想天と、堅牢神と后と、器手天と天女と、常醉と喜面天と、左右の二守門と並に二守門の女と、持國と大梵天と、四禪と五淨居と、次に木者と作者と、鳥頭と並に米濕と、増益と不染等と、羊と牛密と夫婦と、慧と流星と霹靂と、日天子の眷屬とあり、帝釋の印は内縛にして二風を申べて針の如くせよ空は堅てよ、日天は禪智仰けて風水を火の背に加へ、其の狀車輅の形にせよ、社耶毗社耶は、般若と三昧との手、風地の節相ひ背けて水火を自ら相ひ持し空を並て心に置き、九執は二羽合して空輪を並て申べよ、梵天は紅蓮を持せり(月に)三昧の空水を捻せよ、明妃は風火に加へ、空水の中節を持せよ、乾闥婆の密印は内縛にして水輪を申べよ若し事業を作ば諸天は修羅は智の手を以て、風空輪の上を絞へ

定の手抄音の如くす

帝釋天の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、鑠吃囉也、娑嚩賀。

持國天の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、唵地隸多羅瑟吒羅、羅羅鉢囉末駄那、娑嚩賀。

日天子の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿你地夜野、娑嚩賀。

摩利支の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、唵摩利支、娑嚩賀。

九執の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、藥囉醯濕嚩哩也、鉢囉鉢多孺底囉摩野、娑嚩賀。

大梵天王の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、鉢囉惹鉢多曳、娑嚩賀。

乾闥婆の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、尾成駄薩囉囉囉係徐、娑嚩賀。

諸阿修羅の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿素囉囉延、娑嚩賀。

諸緊那羅の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、賀佉薩喃、尾賀薩喃、枳那羅根、娑嚩賀。

摩睺羅伽の眞言に曰く、摩睺羅伽と名く

曩莫三滿多沒駄喃、藥羅藍尾囉隣、娑嚩賀。

諸人の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、壹車鉢藍、摩弩麼曳迷、娑嚩賀。

諸天を請召する眞言に曰く、

那莫三滿多沒駄喃、唵薩囉你嚩多喃、翳醯曳咽、阿你底也素摩、半左諾乞察但囉、

囉護計都、那嚩捺捨尾麼曩、阿瑟吒尾孕設底畢嚩體米曳、摘枳咩柞、娑嚩賀。

普世明妃の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、路迦路迦囉囉野、薩囉囉曩誠樂乞叉健達嚩阿素羅誠嚩拏緊曩

此の請召諸天の言の中に日月五曜二陰十二宮二十八宿の句あり。

こゝに遍一切處等とは即ち三部四處輪の觀門なり具にば面授にあり。

囉摩護囉我你、訶哩捺野、你也羯囉灑野、尾質但囉藥底、娑嚩賀。

爾の時に薄伽梵、金剛手に告げて言はく、遍一切處の甚深祕の法門あり、この字門に住すれば事業疾く成就す、寔冠に手印五を擧ぐ、身行輪之れを布せよ、眉間と咽と心と臍と阿字より娑賀に至るまで右に旋つて輪相ひ接せよ、初と行と果と圓寂となり、方便は一切處にして身外に光燄の如くせよ、伊等の十二字をは外に在て散布せよ。

曩莫三滿多沒駄喃阿。

曩莫三滿多沒駄喃娑。

曩莫三滿多囉曰羅根嚩。

迦佉誑伽仰、左薩惹鄼壞、吒吒拏茶拏、多佉娜駄曩、跋頗麼婆菴、野羅囉嚩捨灑娑

賀皆な上聲短に呼べ、

曩莫三滿多沒駄喃阿。

曩莫三滿多沒駄喃娑。

曩莫三滿多囉曰羅根嚩。

迦佉誑伽仰、左薩惹鄼壞、吒吒拏茶拏、多他娜駄曩、波頗麼婆菴、野囉囉

經及び青軌に賀字の次に吃瀧の二字を加ふ攝軌の意同すべし。

繕拾灑娑賀此の一聲を引いて長に呼べ、右此一轉に去聲に之を呼べ

曩莫三滿多沒駄喃暗

曩莫三滿多沒駄喃慘

曩莫三滿多囉日囉根鏤

劍欠儼儼、占禱染瞻、唵囉喃滿喃、擔探喃淡喃、唵呀喚喚、閻藍藍淡衫參

其の口邊の字はみな第一領轉を帶ぶ本音に之を呼べ

曩莫三滿多沒駄喃噤

曩莫三滿多多駄喃索

曩莫三滿多囉日囉根囉

屬、郤、虐、噉、灼、縛、弱、杓、弱、磔、拆、搦、擇、弱、但託諾鐸諾、博泊漠薄莫、藥噉落

噴鏤索囉

伊縊鳩鳥哩哩囉翳藹汗奧

菩提心の眞言に曰く、曩莫三滿多沒駄喃胃地阿

菩提心の眞言に曰く、曩莫三滿多沒駄喃左哩也阿

同の字及白色の次の如く、青軌にはこれなし、恐くは今の軌を以て是をなす、但しこは即ち黄黒色ならむ、師授を得ずんは、何ぞ解せん、更に問

「其の時に金剛手」已下「悲愍して救護す」まで未傳法者を除く

「其」經には具に作る、青軌は今に同じ

「願字」は曼荼羅の形なり

菩提心の眞言に曰く、曩莫三滿多沒駄喃三胃地暗。涅槃の眞言に曰く、曩莫三滿多沒駄喃涅嚩縛拏惡。

曼荼羅は三重なり内は金輪なり二三は同じく中位なり嚩字は第三重なり黄と黄白色のことなり方便は一切處なり

その時に金剛手大日世尊の身語意地に昇て法平等の觀を以て未來の衆生を念じて一切の疑を斷せしめんが爲の故に大眞言王を説て曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、阿三忙鉢多達麼駄觀、藥登藥多喃、薩嚩他、暗久阿、阿暗惡、慘索、唵鶴、嚩囉、鏤囉、娑嚩賀、吽嚩囉訶囉鶴嚩娑嚩賀。嚩囉娑嚩賀。

その時に毗盧遮那世尊復た諸の大衆會を觀じて執金剛祕密主に告げて言はく佛子祕密八印あり、最も祕密となす、聖天の位威神の同する所なり、自の眞言道を以て標幟となす、其の漫荼羅を圖すること本尊の如く相應せよ、若し法教に依て眞言門に於て菩薩の行を修する諸の菩薩は是の如く知るべし、自身本尊の形に住して堅固にして不動なり、本尊を知り已て本尊の如く住すれば悉地を得、いかんか八印、

寤曠は日暉の色なり、三角にして光を具せり、蓮合して地風を散せよ、開敷は淨金色なり、嚩字にして金剛の光あり、風輪屈して空に在け、彌陀は眞金色なり、月輪にし

演したまう所なり、緣明所明所起の戒は戒に住する時は正覺の如し、悉地を成ずることを得せしむること世間を利せんが爲の故なり、等しく自の眞實を起して常に等引に住して戒を修行すること當に竟るべし菩提心と業と果と、和合して一相となす、諸の造作を遠離せよ、具戒は佛智の如し、此に異なるは具戒にあらず諸法に自在を得て、通達して衆生を利す、常に無着の行を修すれば礫石と衆寶とを等しくす。乃し落叉を滿するに至て所説の眞言教時月等を畢へて禁戒の量終竟ぬ、最初には金輪に於て大因陀羅に住して、阿字を觀せよ、當さに金剛の印を結んで、乳を飲んで以て身を資くべし、行者一月滿して能く出入の息を調ふ、次に第二の月に於ては、水輪の中に嚴整にして輪圍九重を成ず、秋夕の月火の色あり、蓮華の印を以て、醇淨の水を服すべし、次に第三の月に於て、勝妙の火輪を觀せよ、三角にして威焰の鬘あり、大慧刀の印を結で、不求の食を噉せよ、一切の罪を燒滅して、身語意を生ず、第四の月には風輪、行者常に風を服せよ、轉法輪の印を結んで、心を攝して以て持誦せよ、金剛と水輪との觀瑜伽に依住す、これを第五の月となす、得非得を遠離して、行者所得なく、三菩提に等同なり、風と火輪とを和合して、衆の過患を出過せよ、また一月持誦す、此を

(二) 身體のこまな
り。

第六の月と名く、亦利と非利とを捨てよ、釋梵等の天衆、遠く住して禮敬し、一切守護をなし、人天藥草神、持明の諸の靈仙、翼侍して教命に隨ふ、羅刹七母神、一切障をなすもの、この處の光明を見て、馳散すること猛火の如く、恭敬してこれを遠くする等正覺の眞子、一切に自在を得て、難降のものを調伏すること、大執金剛の如し、諸の群生を饒益すること、觀世音に同じ、六月を經逾し已て、所願に隨て果を成じ、常に當さに自他に於て、悲愍して救護すべし、珠を持して心上に當てよ、餘は蘇悉地の如し、一一の諸の眞言、心意の念誦を作せ、出入の息を二と爲し、第一と常に相應せよ、阿字を(一)支分に布して、持して三洛叉を滿せよ、普賢と及び文殊と、執金剛と聖天と、現前して摩頂せん、行者稽首して禮したてまつり、速に闍伽水と、意生の香と華鬘とを奉れ、便ち身清淨なることを得、念誦の分限畢りなば、珠を持して本處に安せよ、方に三摩地に入り、食項あつて定より出て、また根本の印を結び、眞言七遍し已て、次に虚空眼を陳べよ、香華等を奉獻し、悅意の妙伽陀を以てし、闍伽と及び發願とをなせ、救世の加持を説いて、法眼道をして一切處に遍して久住せしめよ、當に金剛掌を合して、明に隨て遍く身に觸るべし、
加持の眞言に曰く、

「主」の字恐くは寫
誤ならむ青軌に
は呈に作れり。
（二）身體のこまな
り。

曩莫三滿多沒駄喃、薩嚩他、勝勝、但陵但陵、顛顛、達隣達隣、娑他婆野娑他婆野
沒駄薩底也嚩、達磨薩底也嚩、僧伽薩底也嚩、娑嚩佉嚩、吽吽、吠娜尾泥、娑嚩賀。
難堪忍大護を以て、左に旋らして大界を解け、還て三昧耶を主り頂上に之れを散し開
け、心に聖天を送つて、五輪を地に投じて禮したてまつり、當さに衆聖に啓白すべし、
現在の諸の如來、救世の諸の菩薩、大乘教を斷せず、殊勝位に到るひと、唯し願くは
聖天衆、決定して我を證知したまへ、各の當さに所安に隨ひたまふべし、後に復た哀
赴を垂れたまへ。 眞言に曰く、
唵、訖哭妬嚩、薩嚩薩但嚩囉他、悉地捺哆野他努誑、藥車特梵、沒駄尾灑鹽、布曩
囉譚摩曩野觀、唵鉢娜麼薩但嚩囉。
前の如く三密を以て獲し、懺悔隨喜等をなし、菩提心を思惟して、薩埵の身に住せよ、
聖力に加持せられ、行願と相應するが故に、持明して本教を傳へ、三昧耶を越するこ
となく、學處に順行せば、悉地當に現前すべし、我れ大日の教に依て、瑜祇の行を開
示す、殊勝の福を修證して普く諸の有性を利せん。

國譯玄法寺儀軌卷第二終

國譯大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎藏菩

提幢標幟普通眞言藏廣大成就瑜伽

卷の上

青龍寺の沙門法全の集

縮餘六、續藏九、
全阿闍梨三卷は法
住阿闍梨集所に
青龍寺の儀軌と云
宗、此三師の請來
所なり、但し今錢む
の師の本なるや、執
院の藏本に依らば
來に治て、智證の請
後、此の五輪を云ふ
幟、胎の軌も亦現圖
茶羅の軌に依る。第
（一）契を結ぶ云
深の啓白なり。

（一）契を結ぶんと欲せば、敬て十方三世の諸佛に白せよ、我等下輩愚鈍の凡夫此の印を掌持すと雖も、蟻蚊
の須彌山を掌るが由如し、恐らくは勢力なからん、唯願くは諸佛我等を加護して我をして無上正覺を成す
ることを得せしめ玉へ。
此の印を結持すれば佛の勢力に同じ、是の語を發し已て誠を至して禮拜せよ。
毗盧遮那佛の 淨眼を開敷し玉へること青蓮の如くなるを稽首し上る
我れ大日經王に依つて 供養の所資と衆くの儀軌とを説かん
次第の眞言法を成せんが爲なり 彼の如くせば當さに速に所就することを得べし
此の生に於いて悉地に入らんと欲はば 授學處の師と同梵行とに
（二）一切毀壞の心を懐くこと勿れ 愚童の心行の法を造せざれ
諸尊に嫌恨を起さざれ 世の導師の契經に説き玉ふが如し

能く大利を損するは瞋に過ぎたるはなし 一念の因縁悉く
 俱胝曠劫の所修の善を焚焼す 是の故に慇懃に常に捨離すべし
 淨菩提心の如意寶は 能く諸願を満し塵勞を滅す
 三昧と智と念と此に由つて生ず 是の故に我れ今勤めて守護す
 又常に大慈と悲と 及ま與よび喜と捨と無量心を具足せよ
まのあた親り尊の所に於いて明法を授かり 觀察し相應すれば成就を作す
 先づ灌頂傳教の尊を禮して 眞言所修の業を請白せよ
 智者師の許可を蒙り已つて 地分の所宜の處に於てせよ
 妙山と輔峰と半巖の間と 菱荷と青蓮との遍く嚴れる池と
 大河と二經川との洲と岸の側と 人物と衆との慣鬧を遠離せよ
 條葉扶疎ならん悦意の樹あらんと 乳木及び祥草の多饒ならんと
 或は諸の如來と聖弟子との 常に往昔に於いて遊居し玉ふ所の
 寺塔と練若と古仙の室と 當さに自心の意樂エキヤウの處に於てすべし
 有情を悲愍して大壇を畫け 淨慧刀を具して能く堪忍すべし

二經川 經には
 涇川と作す、涇は
 即ち水の名なり。

是の夜において放逸より生ずる所の罪を 慇懃に還つて淨め皆な悔除すべし
 心目に視觀して諦かに明了にして 五輪を地に投げて禮を作せ
二十方の正等覺の 三世の一切の三身を具し玉へるを歸命し
 一切の大乗の法を歸命し 不退の菩提衆を歸命し
 諸明眞實の言を歸命し 一切の諸の密印を歸命し上る
 身口意の清淨の業を以て 慇懃に無量に恭敬し禮し上る
 禮すること三たび繞ること三たびして讚歎し 出でんと欲して亦還つて三禮して
 讚し上る

二十方の正等覺の
 偶及び玉印、眞言
 を説き胎藏の懺
 九方便は又八業
 法なり、又胎藏の懺
 九尊の内證に當る
 第一の作禮法方便
 は普賢菩薩なり。

三持地の印 金
 剛部三昧耶の印ミ
 もいふ。

三我れ無明に由
 つて 第二の出罪
 方便は文殊菩薩に
 當る。

眞言に曰く 三持地の印 手印に四つの名あり、其の右の智の手をば毗鉢舍
那と云ひ、左の定の手をば三昧と名く、亦は捨摩他と云ふ。
 唵、曩莫薩嚩怛他彙多、迦野弭嚩吃質多、嚩日羅滿娜南迦嚩弭。
二我れ無明に由つて積集するところ 身口意業に衆くの罪を造れり
 貪欲恚癡心を覆ふが故に 佛と正法と賢聖の僧と
 父母と二師と善知識と 及び無量の衆生との所に於て
 無始より生死流轉の中に 具さに極重の無盡の罪を造れるを

親まらたり十方現在の佛に對し上つて、悉く皆な懺悔して復た作らず

出罪の眞言に曰く、大慧刀の印

唵、薩嚩播波薩怖吒、娜訶曩嚩曰囉野、娑嚩賀。

○十方三世の佛の 三種の常身と正法藏と

勝願菩提の信心衆とを曩莫し上つる 我れ今皆な悉く正しく歸命し上つる

歸依の眞言に曰く、普印

唵、薩囉沒駄胃地薩怛鏤、設羅般葉車弭、嚩曰囉達磨、頤唎。

○我れ此の身を淨めて諸垢を離たると 及及び三世の身口意との

大海と刹塵との數に過ぎたるを 一切の諸の如來に奉獻し上つる

施身の眞言に曰く、獨股の印

唵、薩嚩怛他葉多、布惹鉢囉嚩囉多曩佉怛麼南、涅哩夜哆夜弭、薩嚩怛他葉多室者

地底瑟姪擔、薩嚩怛他葉多惹難謎阿味設觀。

○淨菩提心の勝願の寶を 我れ今起發して群生を濟ふ

生苦等の集に纏はされたる身と 及及び無知に害せられたる身とを

○十方三世の佛の 第三の歸依方便は觀音菩薩に當る。

○我れ此の身を 第四の施身方便は彌勒菩薩に當る。

○淨菩提心の 第五の發菩提方便は寶幢菩薩に當る。

救攝し歸依し解脱せしめて 常に當さに諸の含識を利益すべし

發菩提心の眞言に曰く、定印

唵、胃地呬多、母怛跋娜夜弭。

○十方無量の世界の中の 諸の正遍知の大海衆の

種種の善巧方便の力と 及び諸の佛子の群生の爲めに

諸有ゆる所修の福業等とを 我れ今一切盡く隨喜す

隨喜の眞言に曰く、歸命合掌亦是金剛合掌云ふ

唵、薩嚩怛他葉多、本惹惹曩、弩暮捺那布闍迷伽三暮捺囉、薩嚩囉嚩三麼曳、吽。

○我れ今諸の如來と 菩提大心の救世者とを勸請し上つる

唯し願くは普く十方界に於て 恒に大雲を以て法雨を降し玉ふ

勸請の眞言に曰く、普印

唵、薩嚩怛他葉多、睇灑儔布惹迷伽三暮捺囉、薩嚩囉嚩三麼曳、吽。

○願くは凡夫の所住の處をして 速に衆苦所集の身を捨てしめ

當さに無垢の處に至つて 清淨法界の身に安住することを得せしむべし

○十方無量の 第六の隨喜方便は開敷華王菩薩に當る。

○我れ今諸の如來と 第七の勸請方便は彌陀菩薩に當る。

○願くは凡夫の 第八の奉請方便は天鼓雷音佛に當る。

(一) 所修の一切の第九の廻向方は中央大日如来に當る。

(二) 安坐 著座なり。
(三) 初めの字の明 輪圍九重の座已後先づ九重の月輪を觀す、謂く内五股の印に歸命孔を用ひ、
(四) 正念にして云 法界定印に安住して四無量を觀す、次の如く四佛の願なり。
(五) 大慈三摩地 已下は四無量心觀捨す、佛の慈喜を一切の衆生を觀じて、一切の衆生を觀なり、
(六) 眼目して支節を結び此の觀定印を作す。

奉請法身の眞言に曰く、普通印

唵、薩嚩怛他葉多、捺睺灑夜弭、薩嚩薩怛縛係多囉佉野、達麼駄觀悉體底喫囉鉢觀。

(二) 所修の一切の衆くの善業を以て 一切衆生を利益せんが故に

我れ今盡く皆な正しく廻向す 生死の苦を除いて菩提に至らん

廻向の眞言に曰く、普通印

唵、薩嚩怛他葉多、涅哩也怛曩布惹迷伽三暮捺羅、薩亘囉憐三麼曳、吽。

此れは入佛三昧の前の承事の法なり

身心をして遍く清淨ならしめんが爲めに 哀愍して自他を救攝し

身を所應に隨つて以て(三)安坐して 分明に(三)初めの字の明を諦觀せよ

(四) 輪圍九重にして虚圓白なり (五) 正念にして心を四無量に運べ

慈に入つて遍く六道の 有情を緣せよ皆な如來藏と

三種の身口意の金剛とを具せり 我が修する所の功德力を以て

同じく普賢の法界身に入らしめん

(六) 大慈三摩地の眞言に曰く

唵、摩賀昧怛囉也娑頗囉。

悲心を以て諸の有情を愍念せよ 生死に沈溺して妄りに分別して

彼の煩惱・隨煩惱を起すを以て 眞如平等の理に

河沙に超過せる諸の功德あることを達せず 我が修する所の三密の力を以て

普く願くは虚空藏に等同ならしめん

大悲三摩地の眞言に曰く、

唵摩賀迦囉拏夜娑頗囉。

喜心無量にして四生に遍せよ 本來清淨なること蓮華の如し

凡そ所修の行を有情に及ぼして 同じく觀世自在の身を證せん

大喜三摩地の眞言に曰く、

唵秣駄鉢囉謨娜娑頗囉。

捨心清淨にして法界に遍せよ 我と我所と及び蘊と處と

能と所とを離れて平等にして心不生なり 性相本寂にして空庫に同じ

大捨三摩地の眞言に曰く、

達磨馱視尾戌馱頼、娑嚩賀。

諸佛の有情を慈愍し玉へる者、唯し願はくは我等存念したまへ

我れ今諸の賢聖と、堅牢地神と并に眷屬と

一切の如來と及び佛子とを請白したてまつる、悲願を捨てずして悉く降臨したまへ我れ此の地を受くることは成就を求むればなり、爲めに證明を作して我れを加護したまへ

(二) 堅牢地神 地天のこゝ。

持地の眞言に曰く、定の拳は前の相の如くし、慧を舒べて地を按ぜよ。

曩莫三滿多沒馱南、薩嚩怛他葉多、地瑟訶曩地瑟恥帝、阿佐麗、尾麼麗、娑麼囉彌、鉢囉訖哩底鉢囉輸眺、娑嚩賀。

爾の時に薄伽梵一切法界を觀察して法界俱舍に入りたまふ、如來の平等莊嚴藏を奮迅したまふ三昧を以て、自の身表を化して雲の如くにして遍す、諸の毛孔の中より無量の佛を出したまふ、法界無盡莊嚴を現するを以ての故に、是の眞言行門を以て無餘の衆生界を度して本願を満足し玉ふ。衆くの聲門より隨類の音聲を出し其の本性の如く業生成就して、果報を受用する顯形の諸色と種種の語言と心の思念する所に在いて

而も爲めに法を説いて、一切衆生をして皆な歡喜を得せしむ。展轉して加持し已つて、還つて法界空の中に入りぬ。復た祕密主に告げて言く、曼荼羅の聖尊の分位と種子と標幟とを造することあり、汝當さに緝かに聽き善く之を思念すべし、吾れ今演說せん。

(一) 優陀那 梵語、無問自說と譯す、十二部經の一なり。

(二) 優陀那に曰く、五種の三昧耶といふは一には本尊、二には眞言、三には密印、四には三昧、五には種子なり。眞言遍學者、祕密壇を通過して

法の如く弟子の爲めに、一切の罪を燒盡す

壽命悉く焚滅して、彼をして復た生ぜざらしむ

灰燼に同じ已つて、彼の壽命還つて復す

謂く字を以て字を燒き、字に因つて而も更に生ず

一切の壽と及び生と、清淨にして遍く無垢なり

十二支句を以て、而も彼を器に作せ

是の如くの三昧耶は、一切の諸の如來と

菩薩救世者と、及び佛の聲聞衆と

乃至諸の世間と、平等にして遠逆せず

(三) 彼の壽命、弟子等なり、言るは十二眞言王を以て、弟子の身上に布して法器とならしむ。

（一）阿字は遍く金色なり已下は五大成身の觀なり孔字は本有にして修生なり。四字は

此の平等誓の 祕密曼荼羅を解する時は
一切の法教に入るに 諸壇に自在を得て
我が身彼れと等同なり 眞言者も亦た然かなり
相ひ異ならざるを以ての故に 説ひて三昧耶と名く
現前に囉字を觀せよ 謂く淨光焰鬘ありて
赫くこと朝日の暉りの如し 聲の眞實の義を念すれば
能く一切の障りを除いて 三毒の垢を解脱す
諸法も亦復た然かなり 先づ自ら心地を淨め
復た道場の地を淨めて 悉く衆くの過患を除くべし
其の相虚空の如し 金剛の持する所の如く
此の地も亦た是の如し 本尊瑜伽に住して
加するに五支の字を以てす 等引にして運想せよ
即ち牟尼尊に同じ （二）阿字は遍く金色なり
用つて金剛輪と作して 下體を加持す説いて瑜伽の座と名く

（二）無生の句 孔字なり。

鏤字は素月の光の如くにして 霧聚の中に在り
自の臍の上を加持す 是を大悲の水と名く
噴字は初日の暉の如くにして 形赤にして三角に在り
本心の位を加持するを 是を智火の光と名く
唵字は劫災の焰の如くにして 黒色にして風輪に在り
白毫の際を加持するを 説いて自在力と名く
佉字及び空點は 一切の色を成すと想ふて
加持して頂の上に在り 故に名けて大空と爲す
五字以て身を嚴れり 威徳の炬ひ熾然にして
衆くの罪業を滅除す 天魔の障りを爲す者の 赫奕たる金剛を見るべし
首への中に百光王ををけ 心に（三）無生の句を置け
脇に離染の字を表せよ 無垢眼を安立して
身を觀じて如來に同せよ 復た満足の句を念せよ
曩曩三曼多沒駄喃、阿鍍囉唵哈欠。

器世間の有情の生棲する山河大地のこと。

法界の標幟なり。此に菩薩の標幟といふも同じ。



器世間を安立するには 空風最も下に居す
次に火と水と地とを觀せよ 是の輪金剛に同じ
大因陀羅と名く 光燄淨金色なり 普く皆な遍く流出せり
次に地を念持して 而も衆くの形像を圖すべし

爾の時に薄伽梵 大衆會を觀察して

祕密主に告げて言はく 法界の標幟あり

是れに由つて身を嚴るが故に 生死の中に巡歷すれども

如來の大會に於ける 菩提幢の標幟なり

諸の天龍・夜叉 恭敬して而も教を授かる

初めに佛三昧と 法界と及び法輪とを印す

歸命合にして 大慧刀の印なり。

大慧刀 此の印は無所不至の印のこと。

歸命合にして 風を屈して空輪を甲の側に加ふ

法螺は虚心合にして 風を空輪の上に絞へ

吉祥願は蓮華なり 金剛は大慧の印なり

摩訶は如來頂なり 慧の拳は毫相藏なり

瑜伽は持鉢の相なり 智慧の手に上空をに舒ぶるを

無畏施者と名く 下し垂るるを滿願と號す掌を外

慧の拳の火と水とを舒べよ空を 智者佛眼を成す

内縛にして風輪を索にして 心の印は火輪を舒べよ

水を舒ぶるは如來臍なり 前の印風を月に入れよ

是れを如來腰と名く 次の如く眞言を習ふべし

大慧刀の眞言に曰く 金剛合掌亦た歸命と云ふ、刀をば利智に喩ひ能除断を以て義となす、惡見の山峰見及び俱生見、六十二見等を斷害す、此の刀は即ち大智なり、或は云く定慧虚心合にす、能く諸の煩惱を斷截して無垢の法身を得。

曩莫三曼多沒駄喃、摩賀鳩伽尾囉惹、達摩珊捺囉奢迦娑訶惹、薩得迦野捺囉瑟恥砌諾迦、但他葉多尾目吃底你佐多、尾囉誑達磨你惹多吽。

(一) 大法螺 如來の頂骨の寶珠形を表す。印相は虛心合掌に入ると如く二頭指を以て絞ふ。諸佛菩薩の坐し玉ふ蓮臺なり。

(三) 如來頂 如來の頂骨の寶珠形を表す。

(四) 如來頂相 如來の身量の無過なる相を表す。

(五) 毫相藏 如來白毫を表す。白毫は如來の徳相の第一標示なり。
(六) 大鉢 如來所持の鐵鉢なり。

(一) 大法螺の眞言に曰く 口に近げ之を吹くこと螺を吹くの如くにして左右に旋轉せよ。
曩莫三曼多沒駄喃、暗。即ち一切の善願を滿じ大法を宣説して善く聞知することを得じむることを得。此は是れ寂靜涅槃の印なり。

(二) 蓮華座の眞言に曰く、
曩莫三滿多沒駄喃、阿。金剛座なり、此れに坐するに由るが故に諸佛此れより生ず、印を吉祥の座と名く、金剛不壞の阿より諸佛を生ず。

金剛大慧の眞言に曰く、五峰の印
曩莫三滿多嚙囉赧呼。

(三) 如來頂の眞言に曰く 即ち仁者諸佛の身に同なり、頂印を頂に安想へ佛身の中に入つて相好圓滿す。
曩莫三滿多沒駄喃呼。三解脱を具する義なり、初めを因と爲し後を果と爲す、因は是れ如來の行、果は是れ佛なり。

(四) 如來頂相の眞言に曰く 阿闍梨右の手を拳にして頂上に置いて加持せよ、一切の諸の天神も頂相を見ること能はず。
曩莫三曼多沒駄喃、薩婆他、爾那、爾那。阿闍梨右の手を拳にして頂上に置いて加持せよ、一切の諸の天神も頂相を見ること能はず。
曩莫三曼多沒駄喃、薩婆他、爾那、爾那。勝の義なり、爾那爾那は最も勝とす、能く彼れに勝れたるを以て重れ、佩野曩奢那、恐怖を除く、娑嚙賀。

(五) 毫相藏の眞言に曰く 慧の拳を毫毫に置き、毫光十方に遍し、能く願を滿たし一切の因を淨む。
曩莫三曼多沒駄喃、阿唎惹。

(六) 大鉢の眞言に曰く 袈裟の手の内の角と及び肩に掛けたる角とを取つて肘に繞つて廻らし手の中に入れ、二角をして雙耳の如くならしめ、二手を重ねて引き上げて臍に當て鉢を承くる形にせよ。

(一) 轉帳 袈裟の意。

(二) 施無畏 佛が衆生に無畏を施する義。

(三) 與願滿 一切衆生に滿願を與ふる義。

(四) 悲生眼 肉眼を加持して佛眼を開かしむる意。

(五) 如來索 如來攝受の力を索を以て縛する義。

如來に同じ河沙の諸佛の(一)轉帳を持するの儀なり。非器の衆生をして法器と爲るに堪えざらしむ。

曩莫三曼多沒駄喃、娑。上を急に呼べ、有は即ち三有なり、本不生を以ての故に即ち三有を離れて如來眞實の有を得、謂く諸佛の法身なり。

(二) 施無畏の眞言に曰く 左の手は前の如く衣の二角を持す、此の印は能く一切衆生の種種の怖畏を除く、即ち皆な息むことを得亦た未來種種の大可怖畏を除く。

曩莫三曼多沒駄喃、薩婆他、爾那、爾那。勝の義なり、爾那爾那は最も勝とす、能く彼れに勝れたるを以て重れ、佩野曩奢那、恐怖を除く、娑嚙賀。

(三) 與願滿の眞言に曰く 衣を持すること前の如し、掌を外にして水を施すが如くす。

曩莫三滿多沒駄喃、囉囉。剛の身なり、身なり、意の云く願くは諸佛我れに金剛の身を與へたまへ、亦是れ我れに大智の身を授けたまへ、即ち是れ娑嚙賀。

(四) 悲生眼の眞言に曰く 地、風を以て空の背を押して手を反して三度び眼を飾へ、金篋を以て暗の膜を除く根を淨む、佛眼を成就して如來深密の境界を見ることを得。肉眼は一切の色を見、天眼は一切の衆生の心を見、慧眼は一切衆生の諸根の境界を見、法眼は一切の法の如實の相を見、佛眼は十方を見、華嚴の五十七に出づ。
曩莫三滿多沒駄喃、誑誑。誑誑、空なる囉囉願、落吃叉、一切の相、迦嚙拏、摩野義、怛佉、曩多來作、吃菟眼、娑嚙賀。

(五) 如來索の眞言に曰く 此の索は如來信解の中より生ず、信解力の中より種種の形類を示現す。或は忿怒となり、或は持明となり、大力勢ありて有情を攝化する。

曩莫三滿多沒駄喃、係係。呼召の攝なり、因に三昧の義あり成佛の因を呼ぶなり、此の因は本不生にして因果の相を離れたり、此の因をして淨ならしむれば而も復た果も淨し。

摩訶播捨ハカハシヤ大索なり、離相の因鉢羅婆勞ハラスラウ善な那哩也ナリヤ如空なり、大索廣善に薩埵サト有情ユウジヤウ界カイなり界に
微謨訶迦ビボカキヤ疑を除く恒コト陀葉多タヤダ如來地目吃底ヂモクヂ信解生なり、諸佛の菩薩道を行ぜし時、大誓を立てて一切衆
樂に住して本誓を憶せざれば即ち本願に違す、此れを亦た疑ウタガハシ生ナリな佐多婆嚩賀サタハカ能く障難を作す者、信解力
より生じて能く種種の形を現す、四攝
を以て有情の結を度し散亂の風を除く

(一) 如來心 佛心
の大智慧なり。

(二) 如來臍 如來
臍を表し、此の加
持に由り不滅の常
壽を得。

(三) 如來腰 如來
の腰を表し、此の
加持に依りて佛の
妙色身を得。

(一) 如來心の眞言に曰く 前の指を易へずして火へ申べて相並べ徴しく
能く大慈悲善の深廣大の方便を生ず。

曩莫三曼多沒駄喃枳攘怒ナラマサムマムダボダナムジヤウ智なり、即ち諸佛の智なり、此の智チ 嚩婆嚩賀ハカ
は他より得ず選つて佛心より生ず。

(二) 如來臍の眞言に曰く 阿耨囉は甘露なり、甘露は智の別名なり、能く身心の熱惱を除く、得て
之を服すれば不老不死長壽の身となる、有は心なり印は徴しく水を屈す。

曩莫三滿多沒駄喃阿沒哩都熱惱を除くなり、嚩婆嚩賀ハカ
熱惱を除くなり、嚩婆嚩賀ハカ

(三) 如來腰の眞言に曰く 慧手の地・水・火・風は前の如し、皆な少しく
風す、佛の妙色身を成し自性聖智を成す。

曩莫三滿多沒駄喃恒他葉多ナラマサムマムダボダナムコトヤダ如來三婆嚩賀ハカ
藏の印は虚心合にして 風を屈して空輪を以て押し 地水輪を徴しき曲めよ

普光は火内に交へて 空を入れて風水を散じ 地輪堅てて相ひ合せよ

甲の印は虚心合にして 風幢を火の背に加へよ

舌相は二空を入れよ

語門は風水を圓にして 空を並べて口形の猶たとくにする

牙の印は風を掌に入れよ前に準す

辯説は二風輪前の印に準す 火の側の第三の節にをき 空輪徴しき揺動せよ

十力は蓮華合にして 地空を屈して月に入れて 掌の内にして節を相ひ合せよ

念處は風を空に捻せよ前の印に準す

開悟は風の甲を圓にせよ 地・水・空を掌に入れよ

普賢如意珠は 蓮合にして風を火の上節に加へて寶形の如くにする

慈氏の印は前に準じて 風を屈して火輪の下にし 空を以て(一)獻せよ(二)妙軍持
なり

(一) 如來藏の眞言に曰く 二の垢障を除き、佛の
清淨の身を悟る。

曩莫薩嚩但他葉底弊藍藍ナラマサハラバタヤダイヘイヤクランラン二つは凡夫の 嚩嚩ハカの垢を除く 嚩嚩賀ハカ

(二) 普光の眞言に曰く 亦たは圓光
なり。

曩莫三曼多沒駄喃入嚩囉ナラマサムマムダボダナムナム光なり、嚩囉ハカを以て髮と爲す、輪リン恒他葉多嚩旨コトヤダハカ如來明白
の光なり、嚩囉賀ハカ

國譯青龍寺儀軌卷上

五三一

(一) 獻せよ 恐く
は押の字か。軍持
は即ち妙軍持。此
れを寶瓶の印とい
ふ。
(二) 如來藏 如來
の馬隱藏を表す。
(三) 普光 如來の
頭後の赫々たる圓
光を表す。
(四) 體 謂く眞言
の體なり。眞言

(一)大輪壇の印なり。大金剛輪の印なり。

寶王以て嚴飾して 大宮殿の中に在り
 寶柱皆な行列して 遍く諸の幢蓋有り
 珠鬘等交絡して 妙寶衣を垂れ懸けたり
 香華雲 及及び衆くの寶雲を周帀せり
 普く雜華等を雨らして 繽紛として以て地を嚴り
 諸韻にして愛聲あり 而も諸の音樂を奏す
 宮の中に淨妙の 賢瓶と闍伽とを想ひ
 寶樹王開敷せり 照すに摩尼の燈を以てせり
 三昧と總持との地に 自在の綵女あり
 佛波羅蜜等なり 菩提妙嚴の華あり
 方便を以て衆伎を作し 妙法音を歌詠して 諸の如來を供養し上る
 我が功德力と 如來の加持力と
 及び法界の力とを以て 普く供養して而も住す普印
 (二)大輪壇の印を結べ

(一)衆色界道なり。五色界道なり。印は外五股の印なり。故に金剛大慧の印なり。
 (二)中・幢・華・彌次での如く大日・寶幢・開敷・彌陀佛なり。
 (三)即ぜよ。已下は道場觀なり。

次は(一)衆色界道なり
了白色なり、了赤色なり、了黄色なり、了青色なり、了黑色なり、音なり、界囉(三)中なり、囉幢なり、迦華なり、摩彌なり、訶道には金剛大慧の印。
 (二)觀せよ彼の中胎の内に諸尊の種子一一分明に安布せよ、先づ圓光を想へ 普光の淨月輪あり
 阿字を其の中に置け 次に當さに阿字を轉じ
 大日牟尼と成すべし 清淨にして諸垢を離れたり
 妙色にして三界を起えたり 消穀を以て嚴身の服とす
 寶冠ありて紺髮垂れたり 寂然にして三昧地にあり
 輝燄ありて衆くの電に過ぎたり 猶ほ淨鏡の内に
 幽邃にして眞容を現するが如し 喜怒形色に顯はれ
 與願等を操持せり、正受と相應の身と
 明了にして心に亂ることなく 無相淨法の體
 願ひに應じて群生を濟ひ 八曼荼羅の 眷屬を以て自ら圍繞せり
 次の東には遍知印なり 北方には觀自在なり
 南には金剛手を置け 涅哩底の方に依つて

不動如來の使ををけ 風方には勝三世なり
四方に四大護あり 初門には釋迦文

第三には妙吉祥を置け 南方には除蓋障なり

勝方には地藏尊ををけ 龍方には虚空藏と 蘇悉地の眷屬となり

護世の威徳天 次第にして而も分布すべし

次に香鑪を執るべし

淨治の眞言に曰く

唵蘇悉地羯哩入縛里多曩南多謨囉多曳入縛羅滿駄滿駄賀曩賀曩泮吒

不動大明王を以て 垢を去け清淨ならしめ

辟除して光顯ならしめ 及び護身し結界せよ

(二)阿左羅曩他
不動の梵名あり。

彼の眞言に曰く 如來一切の障を息んと謂ふが故に火生三昧に住して摧大障者の眞言を説きたまふ、謂く行
在せし(一)阿左羅曩他云
めす

曩莫三曼多嚩囉根 戰拏 極惡なり、謂く暴惡なり、摩訶路瀧停 大忿怒、娑破吒也 破壞の恐怖なり、
羅迦 堅固、悍給 二字は種
なり悍給子なり

次に印眞言を以て 衆聖を請召せよ

諸佛・菩薩 本誓に依つて來りたまはんと説きたまふ

定・慧内に拳に成して 慧の風屈して鉤の如くせよ

召に随つて赴集したまふ 灌頂の時は此の鉤印を以て行
者を引いて門に入らむ

眞言に曰く 此の鉤印は能く十方の諸佛菩薩を召して道場に集會せしむ、十地を満足せる位なり、況んや餘の
八部の未だ善心を生ぜる者は來至せざらんや、能く諸佛の大功德海を招じ、悉く一切如來の功德
を滿せしむ。善く一切衆生を召
して亦た此の道を得せしむ

曩莫三滿多沒駄喃、阿薩嚩怛囉 一切の所、鉢囉底訶帝、怛佉葉黨 如來、知奢、鉤、胃地漸
哩也 菩提行、鉢哩布囉迦、娑嚩賀七遍、索と鑪と鈴とを
なり

次に三昧耶を示せ 速に無上の願を滿す

本眞言主 諸明をして歡喜せしむるが故なり

次に金剛杵を執つて 抽擲して金鈴を振れ

所獻の闍伽水は 法の如くし已つて加持して

諸の善逝者に奉つて 用つて無垢の身を浴し上つる

先づ右後に左の膝 額に至して三たび奉獻せよ

曩莫慘滿多沒駄喃、阿。

曩莫慘滿多沒駄喃、娑。

曩莫慘滿多嚙曰羅赦、嚙。

迦佉議伽、左諾惹鄒、吒陀拏茶、多佉娜駄、跋頤麼婆、野囉囉嚙捨灑娑賀吃灑。

曩莫慘滿多沒駄喃、阿。

曩莫慘滿多沒駄喃、娑。

曩莫慘滿多嚙曰羅赦、嚙。

迦佉議伽、左諾惹鄒、吒陀拏茶、多佉娜駄、跋頤麼婆、野囉囉嚙捨灑娑賀吃灑。

吃灑。

曩莫慘滿多沒駄喃、暗。

曩莫慘滿多沒駄喃、慘。

曩莫慘滿多嚙曰羅赦、鏝。

劔欠儼儼、占稽染瞻、帖囉喃洪、擔探喃淡、嚙吸鏝焚、閻噉藍鏝炎衫參頷訖衫。

曩莫慘滿多沒駄喃、噤。

(一) 哩囉囉拏
槃の具さなる梵語
なり。

曩莫慘滿多沒駄喃、索。

曩莫慘滿多嚙曰羅根、嚙。

屬却虐喙、灼綽弱杓、傑圻搦擇、唯託諾鐸、博泊漠薄、藥噉落嚙鏝索囉

吃叉。

伊縊鳩烏哩哩哩囉翳藹汗奧。

菩提心三昧句の眞言に曰く、

曩曩三曼多沒駄喃、胃地阿仰壞嚙曩拏、娑嚙賀。

菩提行發慧の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、左哩也、阿喝穰儻曩怛、娑嚙賀。

成菩提補闕の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、三冒駄暗噉髻喃給、娑嚙賀。

寂靜涅槃の眞言に曰く、

曩莫三滿多沒駄喃、(一) 嚙囉嚙拏、惡嚙弱搦諾莫、娑嚙賀。

秘密主是の如くの字門は如來神力の加持したまふ所なり、我今普く諸佛の利土を觀す

るに此の遍一切處の法門を見ざることなし、彼の諸の如來も宣說せざるもの有ることなし。眞言門に菩薩の行を修せん者の此の法門に於て勤めて修學すべし、カサタカハ阿遮吒多波に於て初中後相加し等持の品類を以て相入すれば自然に菩提心と行と成等正覺とを得ず、大日世尊の如くにして法輪を轉す。

爾の時に世尊等持三昧より起つて秘密主に告げて言はく、善男子諦かに聽け、内心の漫荼羅彼の身地は即ち是れ法界の自性なり、眞言密印の加持を以て之を加持す、本性清淨なるが故に、羯磨金剛を以て護持する所なるが故に一切の塵垢の我と人と衆生と壽者等との過患を淨除す。方壇にして四門あり、西に向ふは通達せり、界道を周旋せよ。内に(一)意生の八葉の大蓮華王を現す、(二)抽莖・(三)敷葉・(四)綵綺端妙なり。其の中に如來います、一切世間最尊特の身なり、身語意地を超越して心地に至り、殊勝悅意の果を逮得す。八葉の上に於て寶幢如來・開敷華王如來・無量壽如來・鼓音如來・普賢・妙吉祥・觀音・慈氏尊います。一切の藥の中に佛菩薩母六波羅蜜三昧の眷屬を以て而も自から莊嚴せり、下には持明の諸忿怒衆を列ね、持金剛秘密主菩薩を以て其の莖と爲して無盡の大海に處せり、一切の地居天等其の數無量にして之を環繞す。爾の時に行者

(一)意生の八葉の大蓮華王。自心より觀じ出す故に意生と云ふ。
(二)抽莖。スキキナリ。
(三)敷葉。ヒラケルシベナリ。
(四)綵綺。イロトリアチアチナリ。

三昧耶を成せんが爲めの故に、意生の香・華・燈明・塗香・種種の餽饈を以て一切皆以て之を獻すべし。優陀那に曰く、

(一)漫荼羅を圖畫す此れ秘密灌頂の法なり。

眞言者誠諦に (一)漫荼羅を圖畫せよ

自身を大我と爲し 囉字を以て諸垢を淨む

瑜伽の座に安住して 尋いて諸の如來を念じ

頂に諸の弟子の 阿字に大空點あるを授けよ

智者妙華を傳ひて 自身に散んせしめ

爲めに内に見る所の 行人宗奉の處を説け

此れ最上の壇なるが故に 三昧耶を與ふべし

漫荼羅は三重なり、内は金輪なり、二三は中位なり、囉字は第三重なり、黃と黃白色と方便は一切處なり。

爾の時に金剛手大日世尊の身語意地に昇つて法平等の觀を以て未來の衆生を念じて、一切の疑を斷せしめんが爲めの故に大眞言王を説いて曰く法界平等觀に住す。

曇莫三漫多沒駄喃、阿三忙鉢多無盡達摩駄觀法界藥登藥多喃無盡法界薩嚩佉一切暗

即時に世尊三摩鉢底の中より無盡界の無盡の語表を出し玉ふ、法界力と無等力と正等覺の信解とに依つて、一音聲を以て四處に流出して普く一切法界に遍じて、虚空と等ふして至らざる所なし。

眞言に曰く根本の印は師に従つて密かに授かるべし

曩莫薩嚩怛佉藥毘毘尾濕嚩目契毘藥薩嚩佉阿阿暗惡。

即時に智生三昧に住して、種種の巧智を出生する百光遍照の眞言を説いて曰く、金剛掌にして時時搖動せよ。

して時時搖動せよ。

曩莫三曼多沒駄喃、暗。

百光王を布ぜんは欲はば暗字を其の中に在け、次の輪に十二を在け、伊等より配典に至れ。第二には迦等の二十五字を在け第四には劍等の二十五字を在け、第五には却等の二十五字を在け、右に旋轉して布し相ひ接して三七遍加持せよ。

秘密主是れを如來秘密の印と名く、最勝秘密なり、輒く人に授與すべからず。二已灌頂の其の性調柔にして精勤堅固にして殊勝の願を發し師長を恭敬し恩德を念する者の内外清淨にして自の身命を捨てて法を求むる者をば除く。

復た次に秘密主 三如來の漫荼羅

二已灌頂傳法
三他人に授くる者
四如來の漫荼羅
五一切の佛心
六現圖曼荼羅
七三角智印の中に
八字吉祥の相あり
九三角は是れなり
十三角は是れなり
十一心は智の體なり
十二是れ加來の體なり
十三智火の體なり

二伽耶迦葉と優
樓頻螺迦葉と優
の兩邊にこの二人
あるは世間の事火
と彼世間の事火
も如來離れざるこ
智火を離れざるこ
に此處を護らしめ
す。

猶は淨滿月の如し 内に商佉の色を現す

一切の佛は三角にして 白蓮華に在り

空點を幟幟と爲し 金剛の印を以て圍繞せり

彼の眞言王より 周帛して光明を放つ

佛、道樹の下に坐して 此を持って四魔を降し玉ふ

號して遍智印と名く 能く多くの功德を具す

衆くの三昧を生ずる王なり

三伽耶迦葉と 優樓頻螺迦葉とあり

次に其の北の維ズミに於て 導師諸佛の母ををけ

光曜ありて眞金色なり 縞素を以て衣と爲せり

遍く照すこと日光の猶ミタし 正受にして三昧に住せり

復た次に七俱胝 佛母菩薩等あり

復た彼の南方に於て 大勇猛菩薩

大安樂不空とあり 金剛三昧寶は

(一) 色無主 一色に片寄らざるを云ふ

暉發せること淨金の由し 微笑して鮮白の衣あり
 内縛にして空・風を堅てよ 左邊に毗俱胝あり
 手に數珠鬘を垂れ 三目あつて髮髻を持せり
 尊形は皓素の由し 圓光あつて(一)色無主なり
 廣・赤・白相ひ入はり 前の印の風・火を交へよ
 次に毗俱胝に近い 得大勢尊を書け
 被服商佉の色なり 大悲蓮華の手なり
 慈榮して未だ敷けず 圍繞するに圓光を以てせり
 明妃を其の側に住しめよ 持名稱者と號す
 一切の妙瓔珞 金色の身を莊嚴せり
 鮮妙の華枝を執り 左に鉢胤遇を持せり
 密印は明王に準じて 風輪の上に舉げて屈せよ
 聖者多羅に近い 白處尊を住せしめよ
 髮冠は純白を襲せしめよ 鉢曇摩華の手なり

(二) 應器 鉢なり 謂く印を鉢の形に成すなり

(三) 多羅 梵の(一)印 目の義、又は眼精の義、觀音の眼より成じたりとす

定・慧虛心合にして 空・水を月の中に入れよ
 聖者の前に於て 大方の持明王を作せ
 晨朝の日暉の色なり 白蓮以て身を嚴れり
 赫奕として焰鬘を成し 吼怒して牙出現す
 利爪あつて獸王の髮あり 印は白處尊の如くにして
 風を空輪の下に移して 相ひ去ること穢麥の如し
 地藏は圓満合にして 二空を風輪の側らにす
 是の如くして(一)應器成す
 觀自在菩薩の眞言に曰く、アボロキヤイジラバ
 曩莫慘曼多沒駄喃、娑種子薩嚩他藥多一切如來 嚩路吉多、觀なり諸佛觀と名く、即ち羯
嚩囉摩野、體なり、大悲 囉囉囉 囉は是れ塵の義なり、阿字門に入る、阿は無なり、即ち是れ無塵の義
三解脱を生ず、三重は是れ因の義、恐怖の義なり、大威猛自在の力を以て三重の塵障を怖れて、清淨を得て佛
の囉字あればなり。吽 眼同せしむ。吽に訶字あるは是れ歡喜の義なり、上に空障あるは是れ三昧の義なり
惹、種子、即ち不生の義なり、或は初の薩 娑嚩賀。
 (三) 多羅菩薩の眞言に曰く、路多囉囉尾さいふ、船の人を渡して大海を超
えて彼の岸に於て自在を得せしむるが如し。

嚴飾するに青蓮を以てして 勤勇の衆を圖作せよ
 先づ妙吉祥を安せよ 其の身爵金色にして
 五髻を其し頂に冠しめよ 猶し童子の形の如くせよ
 左に青蓮華を持せしめ 上に金剛の印を表せよ
 慈顔にして遍く微笑して 白蓮華に坐せり
 妙相にして圓普の光あり 周匝して互に暉映せり
 而も佛の加持 神力三昧王に住す
 及び無量の眷屬あり

觀自在と普賢と對面護と對護と惹野ジャヤと尾惹野ビジャヤと囉母嚕トロボと爾多ニルタと阿波羅爾多アハラと、北には
 光網菩薩と寶冠菩薩と無垢光菩薩と月光菩薩と五髻文殊師利菩薩と、南門の月に烏波ウバ
 髻失ケイシ你菩薩ニと奉教の菩薩と文殊の二使者と鈎召と四奉散とあり。
 青蓮なり虚心合にして 火輪を以て水の背を持し
 二風を以て空の甲を捻す 右の光網菩薩は
 衆くの寶網を執持せり 種種の妙瓔珞あり

(一) 無勝者 經に
 は無勝智となせり
 即ち文殊のことな

寶蓮華座に住して 佛の長子を觀す
 定の拳には鈎印を執り 寶輪を以て火の中を持す
 寶冠は寶印を持せり 右の蓮には無垢光あり
 青蓮にして未だ敷けず 前の印を舒べて徹し屈す佛身光の如し
 計設ケイゼツ你は刀を持す 慧を拳にして風・火を豎つて空を以て地水の甲を押して擬する勢の如くにする
 烏波計設ウバケイゼツ爾は 前の印を火輪を戟の如くにする空を以て風地の水の甲を押す
 地慧は持幢の印なり 定の拳の地・水を豎てよ空を以て風・火を押す
 質多羅童子は 右の拳の風輪を杖の如くにする
 召請は風を鈎つに爲くれ外拳なり 次に五種の奉教あり
 不思議童子は 定・慧を内縛拳にして空を入れて風の甲を背けよ 是くの如く
 の五使者に
 五種の奉教者あり 二衆共に圍繞して

(二) 無勝者を侍衛せり 文殊は三補吒ソウポツカとして二火反して二水の背を押し、二風を以て空輪を捻せよ、
 文殊師利菩薩の眞言に曰く、滿祖室哩沒跋囉マンソウシツリボクダラといふ。

翼従つて端嚴の身なり 當さに彼の眷屬を知るべし
悲愍菩薩と破惡趣菩薩と施無畏菩薩と賢護菩薩と不思議慧菩薩と慈發生菩薩と折諸熱惱菩薩となり。

秘密の標誌 次第に安布すべし

名稱除障尊は 悲力三昧に住せり

智と福と虚心合にして 地・水・空を月に入れ空を以て水の中を持す

風・火輪を並べ合して 摩尼珠を持するが如くせよ

尊の右に除疑怪あり 内縛して火輪を豎て

寶餅に一股を置くが如くせよ 施無畏菩薩は

慧を擧げて施無畏にせよ 除一切惡趣は

前の印相と殊ならず 救護慧菩薩は

悲の手を心に在くべし 大慈生菩薩は

慧の風・空を持華にせよ三を散す 悲旋潤は右に置け

悲念を心の上に在いて 火輪の指を垂れ屈せよ

除一切熱惱は 垂施願の手に作れ
甘露水流注して 遍く諸指の端に在らしめよ
次に不思議慧は 施無畏の手を以て風・空を以て珠を持する狀にして 火等を散して微し屈せよ

(一) 除一切蓋障菩薩
梵の Sarva-
varanashkram bh
三種障・法障・樂障の三障を除く尊の三昧なり。

(二) 除疑怪菩薩
衆生の疑怪を斷ぜしむる徳なり。

(三) 施無畏菩薩
梵の Ahayurakhi-
衆生に五智の光明を施與し畏るゝ所なからしむ。

(一) 除一切蓋障菩薩の眞言に曰く薩婆彌勒摩羅刹羅刹といふ、法性の悲自在の力を以て能く一切衆生の障を除く、障に於て自在を得。
曩莫曇曼多沒駄喃、阿ア種ア子サ薩サ相サ續ナリ係ナリ多ナリ弊ナリ隘ナリ多ナリ善ナリ性ナリ開ナリ顯ナリ現ナリ世ナリ相ナリ嚩ナリ囉ナリ垢ナリ一ナリはナリ愛ナリ見ナリの垢、四には菩薩の垢なり、謂く娑嚩賀。

(二) 除疑怪菩薩の眞言に曰く憍瞋瞋此に譯して除疑怪と爲す、或は除垢と云ふ。衆、所疑の事あつて決さなるなり、梵に號俱賀、蓋といふ。
曩莫曇曼多沒駄喃、訶カ娑サ難ナリ子ナリ尾ビ麼マ底ナリ掣セ諾ダ迦ナリ亦ナリ是ナリ斷ナリ壞ナリ決ナリ斷ナリの義なり、猶ほ能断金剛般若の義の如し。

(三) 施無畏菩薩の眞言に曰く薩嚩薩也嚩嚩囉囉囉囉ラ娑サ難ナリ子ナリ阿ア佩ペ演エン那ナ那ナ無ニ畏ニ施ニす、謂く阿曩莫曇曼多沒駄喃、囉ラ娑サ難ナリ子ナリ阿ア佩ペ演エン那ナ那ナ無ニ畏ニ施ニす、謂く阿

清淨慧菩薩の眞言に曰く、尾球駄摩帝ビシユダマテイといふ。

曩莫三曼多沒駄喃、藥丹ギヤタン種子シユダ達麼ダマ法ホウ三婆嚩サムバムバ界カイに同じ、佛より生ずるが故に法性と名く。

娑嚩賀。

行慧菩薩の眞言に曰く、梵シヤリタラマテイには左里恒囉摩帝サリタラマテイといふ。

曩莫三曼多沒駄喃、地嚩ヂラム種子シユダ鉢納麼ハムドマ蓮華レンワ阿頼野アラヤ藏ソウなり、藏は即ち是れ菩提、彼の藏より生ず、娑嚩賀。

安住慧菩薩の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、ウムシヤウ智チ納婆嚩ナドバムバ生シユ娑嚩賀。

出現智菩薩の眞言に曰く、

曩莫三曼多沒駄喃、余ジ種子シユダ囉ラ悉體囉シツテイラ沒弟囉メツテイラ嚩嚩バ但麼タマ滿マン但囉タラ娑嚩賀。

執蓮華杵菩薩の眞言に曰く、

曩莫ナク摩マ滿マン多ダ沒メ駄ダ喃ナム、嚩ワ日ジツ羅ラ迦カ囉ラ、娑嚩賀。

檀波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

唵、婆嚩バ嚩バ底ヂ囉ラ曩ナク地ヂ跋バク帝テイ尾ビ娑サ嚩ワ惹ゼ布フ羅ラ野ヤ娜ナ難ナム、娑嚩賀。

戒波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

こ
に
種
子
の
字
脱
せ
し
か

唵、試羅シラ駄ダ哩リ拏ニ婆バ嚩ワ底ヂ吒チャ赫ハク。

忍波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

唵、婆嚩バ嚩バ底ヂ嚩ワ底ヂ駄ダ哩リ拏ニ吒チャ發ハツ吒チャ。

精進波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

唵、尾哩ビリヤ野キヤリ迦ウムビ哩ウムビ尾エイビ哩エイビ裔リ、娑嚩賀。

禪波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

唵、婆嚩バ嚩バ底ヂ薩サ播ハム跋バク賀カ哩リ拏ニ摩マ賀カ奈ナ底ヂ曳エイ、ウムウム吒チャ發ハツ吒チャ、娑嚩賀。

般若波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

唵、地室チシヨ哩リ輸シユ嚩ワ多ダ尾ビ惹ゼ曳エイ、娑嚩賀。

方便波羅蜜菩薩の眞言に曰く

唵、摩マ賀カ每マイ怛タ囉ラ啣シツ帝テイ、娑嚩賀。

願波羅蜜菩薩の眞言に曰く。

唵、迦キヤ嚩ワ拏ニ嚩ワ拏ニ賀カ賀カ摩マ。

力波羅蜜菩薩の眞言に曰く、

左に商佉羅を置き 金剛鐮を執持せり
 自部の諸使と俱なり 其の身淺黄色なり
 智杵を幟幟と爲し 四輪を背け相ひ又へて
 旋轉して慧を定に加へよ 執金剛の下に於て
 忿怒降三世あり 大障を摧伏する者なり
 號して月歷尊と名く 三目にして四牙を現はし
 夏時の雨雲の色にして 訶吒吒の笑の聲あり
 金剛霽を以て瓔珞とし 衆生を攝護するが故に
 無量の衆圍繞せり 乃至百千の手あり
 衆くの器械を操持せり 是の如くの忿怒等は
 皆な蓮華の中に住せり 前の金剛鐮に準じて
 二空を開いて風を持し 諸の金剛は持地なり
 金剛拳は内縛にす二空并べ整てて二肘を相ひ近けて稽々高く擧げて以て極の形に像り、右に向つて視て嗔つて打つが如くせよ。
 忿怒軍吒利は 瑩として碧頗黎の如し

(二) 黄雲の色と作す軌には黄金色と作す。

(三) 黒金 支軌には黒色となす。

威光切火の如く 赫奕として日輪を背ろにし
 眉を顰して笑怒の容にして 虎牙を上下に現はし
 千目ありて視ること瞬かならず 威曜盛なること日の如し
 千手に各々 金剛の諸の器械を操持せり
 金剛霽を首冠とし 龍の瓔虎皮の裙ありて
 月輪の中に在りて 瑟瑟の磐石に坐せり
 忿迅俱摩羅は 青蓮華に住せり
 身を(二)黄雲の色に作せ 髮赤にして上に撩亂たりカサマ
 瓔珞と釧とを以て身を嚴り 虎皮を用つて跨に縵せり
 慧には杵、定は無畏なり 纒に眞言句を持すれば
 化佛口より出づ
 次には烏芻沙摩 大忿怒の形に作れ
 (三) 黒金にして光焰起れり 右には鋸、下は罽索
 棒及び三股叉 器械に皆な焰起れり

(一)食敬等 恐ら
く寫誤ならんか
これ下の法那の
句義なり。
(二)珍 謂く圓珍
なり、但し一本に
は此の註なし。

定に入る
なり。

曩莫三曼多嚩曰羅蔽、係係種子なり、緊旨囉拽徒何不速作なり、約教を爲す義なり、人の處分し
ふか疑哩恨拏疑哩恨拏、煩惱を食するなり、諸の法那法那此の四字は(三)珍、鉢哩布羅野充滿なり、
如し疑哩恨拏疑哩恨拏、煩惱を食するなり、諸の法那法那此の四字は(三)珍、鉢哩布羅野充滿なり、
食して行人の勝願を満足せしむ、薩嚩緊迦囉蔽娑嚩鉢囉底尾然本所立の娑嚩賀。
しむ、金剛行三昧なり、薩嚩緊迦囉蔽娑嚩鉢囉底尾然本所立の娑嚩賀。

次に西方に往いて 無量の持金剛を畫け
種種の金剛の印と 形色と各各差別なり
普く圓淨の光を放つ 諸の衆生の爲めの故に
中に般若尊を置け 不動の曼荼羅は
風輪なり火と俱なり 涅槃底の方に依つて
大日如來の下に 不動如來の使ををけ
慧刀と絹索とを持し 頂髪を左の肩に垂れたり
一目にして諦に觀じ 威怒にして身に猛焰
安住して磐石に在り 面門に水波の相あつて
充滿せる童子の形なり 光焰火界の印なり

風方には忿怒尊あり 謂はゆる勝三世なり
威猛にして焰圍繞し 寔冠にして金剛を持せり五股
自の身命を顧みず 專請して教を受く
般若の右邊に 焰曼威怒王を置け
青水牛の座に乘じ 種種の器材を持し
鬪骸を瓔珞と爲し 頭冠あつて虎皮の裙あり
身に逼じて焰同然たり 四方を顧視すること
師子の奮迅するが如し 次の右に降三世あり
不動尊の眞言に曰く、

曩莫薩嚩怛佉葉帝毗樂薩嚩目契毗樂薩嚩他怛囉吒贊拏摩賀路灑拏欠佉囉佉囉嚩尾
觀南呬怛囉吒憾捨。

勝三世金剛の眞言に曰く 如來、法幢高峰觀三昧に住して三界雜調の衆生及び三毒の煩惱を降伏するに三
界に於て天中の天として無量の眷屬あつて大天主と爲す、彼の諸天に勝るこも
百千萬倍せるを化し玉ふ、更に何れ
の衆生あつてか而も能く勝らんや。

曩莫三曼多嚩曰囉蔽、訶訶訶行の義、喜の義なり、是れ三乘の人の行なり、尾娑麼曳、奇哉なり、怪哉
なり、佛は常に

慈を以て瞋を對治し無貪を以て貪を治し玉ふ、今は乃ち大薩嚩怛佉薩多一切如来尾灑野境界三婆吠
忿怒を以て忿怒を降し、大貪を以て一切の貪を除き玉ふ。薩嚩怛佉薩多一切如来尾灑野境界三婆吠
生なり、佛の境界より生ず、佛の境界は諸佛相頼種子路積也三世尾惹野勝なり、叫惹呼召なり、
の實相なり、實相より生ず、號して降三世爲す、相頼種子路積也三世尾惹野勝なり、叫惹呼召なり、
娑嚩賀。

大威徳金剛の眞言に曰く、

唵三界の一切賢聖を驚覺種子種置力一切の怨家を摧伏す、尾訖哩多娜曩恐怖叫薩嚩設咄唵一切の怨家
ナラシヤサカムバヤ禁止ノハツタツハツタツ破壊なり、降伏
娜捨野薩擔婆野禁止ノハツタツハツタツ破壊なり、降伏
娑嚩賀。

國譯青龍寺儀軌卷の中終

國譯大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎藏菩
提幢幟幟普通眞言藏廣大成就瑜伽

卷の 下

青龍寺の沙門法全の集

持眞言行者 次に第三院に往け

東方の初門の中に 釋迦師子の壇

謂く(一)大因陀羅なり 妙善にして眞金色なり

四方の相ひ均等なること 前の如し、金剛の印をかけ

上には波頭摩を現はせり 周布して皆な黃暉あり

金剛の印を以て圍繞せよ 紫金光聚の身

相を具すること三十二なり 袈裟衣を被服し

(二)白蓮華臺に坐せり 教をして流布せしめんが爲めに

(一)大因陀羅 堅
窟の名なり。

(二)白蓮華臺 中
胎清淨法界藏な

(一) 彼に住して法輪を轉じ玉ふ。

(二) 悲恐らくは是れ寫誤ならんは井の字か悲は既に前に出づ。
(三) 釋迦牟尼佛生身の釋迦は變化法身にして加持世界の大日尊なり。謂ゆる遺身の舍利は即ち此の入處處三昧の實義を表す。

(一) 彼に住して法を説く 智の手は吉祥の印にして空水を

密處の三昧に入り 虚空と觀自在と

無能勝と及び妃とあり 次の北には如來寤と

如來毫相尊と 大轉輪と光聚と

無邊音聲佛と 如來悲と愍と慈とあり

左には白傘蓋佛と 勝佛と最勝佛と

高佛と摧碎佛と 如來舌と語と笑と

寤の上には燦乞底と 梅檀香辟支と

多摩羅香等と 目蓮と須菩提と

迦葉と舍利弗と 如來喜と(三) 悲と捨となり

傘の上には如來牙と 輪輻辟支佛と

密輻辟支佛と 拘絺羅と阿難と

迦梅と憂波離と 智と供養雲海となり

(三) 釋迦牟尼佛の眞言に曰く 捨根也母你と名く、三昧の光の中に此の眞言を現す、密處の三昧に入り、眷屬も同じく入れり、乃至諸天等皆な是れ如來所化の身なり。

曩莫慘曼多沒駄喃、婆種子眞言堅の嚙吃哩捨一切の煩涅素娜曩摧伏なり、闍なり、利鐵の如く薩嚙達磨一切法嚙始多鉢囉鉢多を得なり、謂く諸法に於て自在を得るなり、諸法に於て自在を得、此の法を以て煩惱を擱るなり、娑嚙賀。

次に世尊の右に於て 遍知眼を顯示せよ

懇怡の相にして微笑し 遍體に圓淨の光あり

意見無比の身なり 是れを能寂母と名く

眞言に曰く 則ち佛母の加持を得て眼根清淨なり、眼の印は二羽虚中合にし、て風を扇して火の背に相著けす空輪并べ建てよ、五眼成る、

曩莫三曼多沒駄喃、相爲す佗識多如來作乞芻眼、尾野嚙路迦野觀の義、娑嚙賀。

次に毫相明を寫せ (二) 鉢頭摩華に住せり

圓照にして商佉の色なり 如意寤を執持して

衆くの希願を満足し玉へり 慧の拳を眉間に置け 風指を申べて空

毫相の眞言に曰く 不生の行淨行なり、即ち仁中の入最勝の尊に同じ、

曩莫三曼多沒駄喃、嚙囉泥與願なり、能く一切嚙囉鉢囉鉢帝願得なり、人の當あるが如きは能く

に依つて能く自在に施與して、悉く有情をして充足せむ。娑嚙賀。

(一) 鉢頭摩華 蓮華なり。

無量聲佛頂の眞言に曰く（二）火の中節を捻せよ、前の商住の相の如し。

曩莫三曼多沒駄喃、吽惹欲郎瑟尼灑、娑嚩訶。

次に聲聞衆を置け 梵爽を標幟と爲せよ左に在け

彼の眞言に曰く

曩莫三滿多沒駄喃、係（三）體（四）暗（五）因（六）鉢（七）羅（八）底（九）也（十）野（十一）綠（十二）な（十三）ビ（十四）尾（十五）葉（十六）多（十七）離（十八）な（十九）羯（二十）磨（二十一）事（二十二）業（二十三）ニ（二十四）涅（二十五）惹（二十六）多（二十七）り（二十八）吽。

復た緣覺衆を置け 内縛して火輪を堅てて

圓滿にして錫杖の相にせよ

眞言に曰く（一）緣覺の相と佛相と何の別がある、佛相は圓滿なり、緣覺相は身相現せたり。

曩莫三滿多沒駄喃、嚩（二）說（三）無（四）證（五）する（六）なり。

釋迦牟尼の前に 無能勝及び妃あり

明王は智に蓮を持するが如くせよ（一）風を以て空を捻し、火を風し

べて（二）頭（三）より（四）も

而かも黒蓮の上に在き 妃の密は勝の大口なり（一）黒色にして刀を持せり、内縛にして

阿跋羅（二）余（三）多（四）の眞言に曰く（五）無能勝不可破壞なり、徳を隠して而も化す、

阿跋羅（二）余（三）多（四）の眞言に曰く（五）吽字は是れ釋迦如來忿怒師子震吼の聲なり、

定の掌は外に向けて舒

（一）地 地は法界なり、塵は塵垢なり、合して地字なり、合して地喉字となり、種子なり、勝境が勝境なり。

（二）普華 右の風を以て火を捻じ、空を以て火の側の文を捻じ、水の側の文を以て火の側の文を捻じ、心の前に側たつて。

曩莫三曼多沒駄喃、吽（一）吽（二）地（三）法（四）界（五）なり、（六）塵（七）是（八）れ（九）塵（十）の（十一）地（十二）喉（十三）唧（十四）噯（十五）なり、（十六）唧（十七）噯（十八）、（十九）娑（二十）嚩（二十一）訶。

無能勝妃の眞言に曰く（一）女形なり、因に於て自在を得れば二十五有のおのづから不生なり、常に

曩莫三曼多沒駄喃、阿跋羅（二）余（三）帝（四）無（五）能（六）勝（七）の（八）惹（九）行（十）底（十一）勝（十二）の（十三）別（十四）名（十五）なり、即ち（十六）戰（十七）勝（十八）の（十九）勝（二十）、（二十一）怛（二十二）泥（二十三）帝（二十四）摧（二十五）破（二十六）三（二十七）勝（二十八）、（二十九）娑（三十）嚩（三十一）訶。

娑嚩訶。

次に東北方に於て 淨居衆を布列せよ

自在は思惟の手にせよ（一）頭に側めて、（二）普華は風・火を差らせ（三）火を入れて胸

光鬘は空を掌に在く 滿意は空・風を華の如くにせよ

遍音は空を水に加ふ 火・風を以て耳を掩ふ（一）兩耳

自在天子の眞言に曰く（一）清淨の法より生ず、世天の業より生ずるに非ず、淨心、思惟勝妙の手、垢を離れて妙端嚴妙にして衆生の心を滴悦す。

曩莫三曼多沒駄喃、唵（二）播（三）囉（四）你（五）怛（六）麼（七）囉（八）底（九）毗（十）藥（十一）、（十二）娑（十三）嚩（十四）訶。

普華天子の眞言に曰く（一）右の手を散して風を以て火の背を捻じ、空を以て火の側の文を持し、地・水・風を以て胸の前にせよ。

曩莫三曼多沒駄喃、摩（二）訶（三）囉（四）摩（五）達（六）磨（七）嚩（八）婆（九）嚩（十）尾（十一）婆（十二）嚩（十三）迦（十四）訶（十五）訶（十六）訶（十七）那（十八）嚩（十九）嚩（二十）怛（二十一）泥（二十二）、（二十三）娑（二十四）嚩（二十五）訶。

光鬘天子の眞言に曰く（一）右の空を掌に入れ、諸輪を散せよ。

曩莫三曼多沒駄喃、惹（二）覩（三）郎（四）姪（五）寫（六）難（七）、（八）娑（九）嚩（十）訶。